



教育に新聞を

# 2015年度 大分県NIE 実践報告書

## 2015 年度大分県 NIE 実践指定校

	学 校 名	学 校 長	実 践 代 表 者	
通 常 枠	大分市立舞鶴小学校	高野 彰	若杉 健志	継続
	別府市立別府中央小学校	永井 宏道	種村 由加	継続
	臼杵市立北中学校	亀井 勝治	永松 芳恵	継続
	豊後高田市立高田中学校	早田 義司郎	桑原 美香	新規
	中津市立東中津中学校	西口 好一	長松 涼子	新規
	大分県立大分上野丘高等学校	宮脇 和仁	佐脇 義敏	継続
	大分県立別府青山高等学校・ 別府翔青高等学校	辛島 信昭	徳光 省吾	新規
大分県立大分舞鶴高等学校	長田 文生	小坂 吏香	新規	
全 国 大 会 枠	大分市立寒田小学校	佐藤 由美子	平山 立哉	継続
	大分市立鶴崎小学校	野村 尚生	本松 健一	継続
	大分大学教育福祉科学部附属小学校	土谷 陽史	安部 真治	継続
	大分市立滝尾中学校	佐藤 雅彦	村上 重行	継続
	大分市立判田中学校	羽野 隆	進 麻美	継続

# 「SGH『課題研究』におけるNIE活用」

大分県立大分上野丘高等学校 佐脇 義敏

## 1 はじめに

本校では、昨年度から文部科学省よりSGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）に指定され、グローバル化に対応する人材の育成に取り組んでいる。1年生では、「課題研究」という科目を設定し、「大分から世界を見る」という共通テーマで、「暮らし・生活」、「産業・経済」、「環境・資源」、「自然・文化」の4分野についての研究を行っている。具体的には、NIEを活用して32項目の大分県内の課題を設定し、これを広く海外との比較研究を行う中で、発見できたことをショートレポートにまとめる内容となっている。本校のNIEは、この学習において、導入部に地元大分県内の新聞記事を教材として活用し、それを発展させた授業づくりを行っている。

## 2. NIE実践計画

### (1) SGHの教育内容

本校では、SGHの教育内容としては、次のように年次進行で行われる。

#### 1年次（全員）

・課題研究（4単位）

「講義とショートレポート作成」

APU国際学生との連携

地元企業との連携

国内・国外研修の実施

2月 成果発表

#### 2年次（コース選択者）

・課題研究（3単位）

「英語・ロングレポート作成」

APU・企業との連携

2月 成果発表

#### 3年次（コース選択者）

・課題研究（1単位）

「ロングレポート作成」

10月 成果発表

### (2) 「課題研究」学習のねらい

①グローバル社会を考えるために、ローカルな視点から考えようとする態度・意欲を育てる。

②人口減少が予想される大分の課題を日本の課題、さらに世界の課題と位置づけ、NIEを通じて、今後の課題点や対策について考察させたい。

③大分の課題について、グローバルな視点で比較研究させ、今後の大分のあるべき姿について具体的な「提言」につながるようなレポート作成をおこなわせる。

### (3) 学習計画

5月～7月にかけて「課題研究」授業計21時間、70の新聞記事をモチーフに大分の実態学習を計画した。新聞記事内容について生徒に事前に示し、その問題点、背景・原因等、国内関連事項を調べさせ、発展させる授業を予定した。扱った新聞記事に関しては、過去3年間の大分県内関連記事について、大分合同新聞社より提供を受けた。

### 3. 取り組み内容

#### (1) 学習の流れ

本校1学年の生徒数は1クラス40名で8クラス編成、計320名である。10名で1班を構成し、A「暮らし・生活」B「産業・経済」C「環境・資源」D「自然文化」の4分野について、それぞれ8班、計32の班編制とした。以下大きな学習の流れを示した。

テーマ・時期	学習内容
(1) 大分の2040年 4月	・2040年の大分 ・課題は何か 【NIE】
(2) 大分再発見 5月～6月	・4分野の学習 【NIE】
(3) 班テーマ設定 7月	・班毎のテーマ・副題、研究 主題の設定
(4) フィールドワー ク 8月	・現地学習 ・聞き取り調査
(5) 課題の明確化 比較研究地域の 選定 9月	・課題点の絞り込み ・APUでの研究
(6) 調査・研究 10月～11月	・図書分析 ・【新聞記事分析】 ・聞き取り調査
(7) 分析・まとめ 12月	・日本語レポート作成
(8) 発表 12月、1月	・12月20日中間発表会 ・1月29日成果発表会
(9) レポート完成 2月	・英文レポート完成

#### (2) 班の研究内容

昨年12月に「中間発表」を実施し、32のすべての班が分野毎に発表を行い、1月の「成果発表会」に向けて4分野それぞれの代表班を決定した。本来ならば、32班すべての研究内容を掲載したいが、紙面の関係で、代表班4班の研究内容を紹介したい。

A分野「大分の暮らし・生活」	
テ   マ	「なぜ国道197号線は海を渡っているか」豊予海峡大橋の実現の意義
研 究 内 容	古来大分と四国地方は197号線という「海の道」を通じてつながってきた。豊予海峡大橋がもたらすさまざまな可能性について考察した。
N I E	「豊予海峡ルートと広域連合」 「県人口95万5千人 竹田市などで半減」「県内人口4市町村社会増」
比 較 地	・ボスポラス海峡大橋 ・ユーロトンネル ・関門海峡大橋
提 言	大分と愛媛・瀬戸内は連携すべきである。

B分野「大分の産業・経済」	
テ   マ	大分の経済・農業を救う「地産地消」循環型経済
研 究 内 容	地産地消の考え方をさらにネットワーク化することで、循環型経済に発展させることができる。「一村一品運動」を継承 ・発展させたい。
N I E	「新規農業就労問題」「県内給食広がる地産地消」「安心院スローフード感謝祭」「木の花ガルテン農業賞」
比 較 地	・ベルギーのマルシェ ・アメリカのファーマーズマーケット ・イスラム圏のバザール
提 言	ハブ・スポーク・ネットワークの考え方で循環型経済は可能である。

C分野「大分の環境・資源」	
テーマ	大分の地熱発電の可能性
研究内容	地熱バイナリー発電の可能性に着目し、大分が地熱発電の条件では、素晴らしい環境にある点に着目し、エネルギーの地産地消についての可能性を考えた。
N I E	「地熱発電大分に学べ」「地熱の町九重へ」「バイナリー発電に注目」「温泉資源の活用と保護」
比較地	・アイスランドの地熱発電事情 ・アメリカの地熱発電
提言	地熱発電は大分の電力事情を変える

D分野「大分の自然・文化」	
テーマ	祭り それは人と地域をつなぐ架け橋
研究内容	かつては「祭り」は地域社会をつなぐ大きな役割を果たしていた。高度成長を経て大分でも地域の祭りが衰退している。祭りの現状を調査し、これからの祭りのあり方、特に地域住民と企業の共同参加型の祭りについて注目した。
N I E	「街が変わる、若者も変わろう」 「庄内神楽保存会大舞台で成長の舞」 「大分でYOSAKOI祭り」
比較地	・イギリス、チーズころがし祭り ・スペイン、火祭り
提言	地域住民と企業が一体化し、競争原理を取り入れた、祭りを創り上げる必要がある。

#### 4. まとめと課題

1年間、SGH「課題研究」においてNIEを導入した学習活動を行ってきた。特に本年度は、「大分からみた世界」という統一テーマを設定し、地元大分に関連する記事を選んだ。日頃新聞の隅々まで目を通すことのなかった生徒たちは、大分の現状を知りたいへん驚いていた。本学習にとって、NIEは欠くことができないたいへん効果的な学習である。すべての班は、専門的なテーマ設定を行ったため、海外との比較研究では、残念ながらNIEは効果を上げることができなかった。これは仕方のないことかもしれない。以下課題点としてあがった点をまとめた。

(1) 約3カ月の間、21時間で、実に70もの新聞記事を使用した。完全に多すぎた。来年度は半分近くに精選し、内容の深掘りを進めたい。

(2) 生徒たちに新聞記事を選ばせる余裕が必要だった。

(3) テーマ設定に際し、もう少し明確にNIEの成果を位置づけるべきであった。研究を進めるにあたって、その部分が抜け落ちてしまった。来年度の課題としたい。

(4) 大分県内記事は毎日膨大な量が発信されており、それらをどのように集約し、タイムリーな話題と本質的な話題として整理するか、教員側の課題として残った。

#### 5. 最後に

SGH指定校、NIE指定校2年目で、何とか両者を結びつけたいと考え実践した2年間であった。しかし改めて振り返ると反省点も多い。しかし、生徒たちは、この「課題研究」の学習を楽しみにし、確実に成長する姿を見せた。来年度はさらに充実した研究にしたいと考えている。最終頁には、「成果発表会」で、B「大分の産業・経済分野」で代表班となった生徒たちのスライドの一部を掲載した。

# The Network of the Local Food Production and Consumption for Saving the Economy and Agriculture in Oita

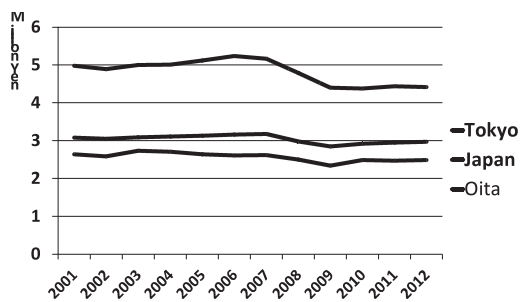
Group 2B

Kaito Kawano, Ryotaro Kanda, Haruki Kido,  
Shohei Kubo, Yosei Koide,  
Natsumi Sato, Nanami Shibata, Miku Shimomura,  
Mei Suematsu and Miyu Seto

## Markets in Foreign Countries



## Average Income



## Markets in Oita



What is needed in Oita is...

Economy With  
Hub Spoke Network



# 新聞を通して考える 社会と自分

～新聞を進路目標設定（進路学習）に活かす方法を探る・1年目～

大分県立大分舞鶴高等学校 教諭 小坂 吏香

## 1. はじめに

本校は、今年度、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）第3期の指定を受けている。また、ラグビー部を始めとして全国大会に出場する部活動も多い。意欲的な生徒が集まり、高いレベルでの文武両道を目指す学校である。とはいえ、自分が生きている現代社会で何が起きているのか、日頃、知ることも考えることもなく過ごしている生徒が大半である。

さて、新聞を活用した指導の意義として考えられるものとして、「①社会の知識（課題）の認識を深める。②社会と自分自身をつなげる。（身近な問題としての把握）③様々な人の生き方、価値観を知る。④読解力、表現力を育成する。⑤進路目標の設定及び目標の実現」等々、数多くある。

本校が育成したい力としている「社会の変化にたくましく対応できる生きる力」を育むためにも、NIEの実践が効果的ではないかと考え、1年国語科を中心に取り組んだ。

## 2. 実践の概要

### (1)生徒の状況

【4月スタディーサポートより】

「本も新聞もよく読む」…15.0%

「本も新聞もほとんど読まない」…26.9%

数値のほとんどは「本」であり、「新聞」自体の数値はまだ低い。このアンケート結果と学習成績結果においても、本・新聞の読書量は学力とリンクしていると見て取れた。

高校生活も半年を過ぎて、新聞について取ったアンケート結果は、次の通り。

問1	自宅で新聞を購読していますか。	1 はい	77.6%
		2 いいえ	22.4%
問2	ふだん、新聞を読んでいますか。	1 ほぼ毎日	5.3%
		2 時々	51.2%
		3 読んでいない	43.6%
問4	ふだん、どの媒体で時事問題を読んだり・見たりしていますか。	1 テレビ	65.7%
		2 パソコン(ケータイ・スマホ)	26.1%
		3 新聞	2.0%
		4 ラジオ	0.7%
		5 友人・家族などから聞く	3.6%
		6 雑誌	0.0%
		7 その他	0.0%
		8 読んだり見たり聞いたりしない	2.0%

高校生活が始まり、新聞に触れる機会を持てなくなった生徒が少なくない。問2で「ほぼ毎日・時々、読んでいる」と回答した生徒も、読んでいるのはスポーツ欄・テレビラジオ欄が多かった。しかし、新聞を読むことによって様々な力をつけられると、漠然と感じていることも分かった。

問5	新聞を読むと、どのようなことができるようになると思いますか。（複数回答可）	1 時事問題を知る	260
		2 語彙力がつく	219
		3 文章を読むのが速くなる	125
		4 文章を分かり易く書く	36
		5 情報を選択する	62
		6 情報を活用する	95
		7 より深く思考する	71
		8 自分と他者の違いが分かる	39
		9 自分の視野が広がる	168
		10 その他	1

そこで、実践1年目は、まずは新聞を読む場所・機会を作るところから開始した。

### 【実践の目標】

- 1 新聞を通して、生徒の社会への関心、読解力、思考力、表現力を養成する。
- 2 生徒が自発的に新聞を調べ、進路目標の設定及び達成に資するものとする。
- 3 学年、複数教科、図書館等の連携の取れた組織体制を構築する。

## (2)それぞれの取り組み

### 【学年としての取り組み】

①NIEコーナーの設置（教室横のギャラリースペース）



※生徒の活動が載った記事の切り抜き「舞鶴魂の体現」や読ませたい記事の掲示



②新聞記事、コラムのプリント配布（毎日/平日）  
→生徒は一番心に残るものを選び、感想意見を記入して提出する。（週末）



③いっしょに読もう新聞コンクールへの応募  
（SSH探究国語選択者の課題）

→奨励賞 1名



④切り抜き新聞コンクールへの応募（1年生全員・冬季休業中課題）  
→準グランプリ 1名、優秀 5名、学校賞

### 【国語科としての取り組み】

#### 「SSH探究講座」での実践

①「SSH探究講座」とは

本校は前述の通りSSH指定校であり、理数科1クラスを設定。その教育効果を理数科に限らず、全校生徒に広げるため、「SSH探究」（※他校の総合的な学習の時間に相当する。）や「SSH国際情報」「SS科学」等を学校独自のカリキュラムとして設定している。

＜目的＞幅広い科学的・社会的素養と科学的探究力の育成。科学や学問に対する興味・関心の高揚、学ぶ意欲の育成。

＜SSH探究の構成＞講演（不定期）、未来設計（キャリア教育）、各教科で設定する講座（毎週火曜日7限）※生徒はオリエンテーションの後、希望する講座（全3時間が基本）を選択する。

I期～VI期/年間。

②1年国語科「SSH探究講座」の実際

＜テーマ＞社会の諸問題に迫ろう



<目的>

○新聞記事から現代社会には様々な問題があることを知り、その中の一つに注目して問題の概要、原因や影響等、多角的に調べる。

○最適な発表方法で分かりやすく伝え合うことで、諸問題に対する理解を深める。

<参加生徒> 1回目 4/28～7/7 51名  
2回目 8/24～11/10 50名  
3回目 1/12～3/15 40名

<指導者> 1学年国語科3名+司書

<使用場所> 準備…図書館  
発表…会議室 等

<指導手順> (全6時間、2期分)

時間	学 習 活 動	目 標
1	新聞から見つけよう	学習のめあてを知り、見通しを持つ
	～どんな問題があるのか？記事に書いてあることは何なのか？等々	班分け、課題設定 資料・情報を集める
2	幅広く調べよう	資料・情報を集める
	～それぞれの問題がどうつながるのか？どのようなことに影響を及ぼすのか？等々	課題の再設定 情報を記録・整理する
3	情報を絞り込もう	情報を絞り込む
	～みんなに一番伝えたいことは何なのか？何をどう説明すれば伝わるのか？等々	再調査する ポスターセッションの方法を知る
4	発表に向けた準備をしよう	「事実」と「意見」を区別する
	～分かりやすいポスター・説明原稿を作ろう！	「自分の言葉」で語る
5	問題について理解しよう【発表会】	伝え合い深め合う
6	学習を振り返り考えよう	自己評価・相互評価
		意見文を書いて投稿する

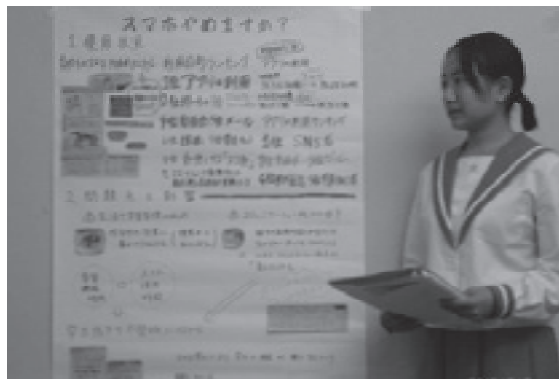
分からないことだらけの現代社会の諸問題について、せめて自分が担当するテーマについては詳しくなってもらいたいし、また、より多くの問題について知ってもらいたかった。

そこで、報告者と聞き手の距離が近く、気軽に質問して率直な意見交換ができること、十分な準備がなければ説明もできないし質問にも答えられない＝ごまかしが効かないこと等から、発表形式をポスターセッションとした。情報収集のみならず、その整理の仕方、表現力等が総合的に問われる方法である。

<テーマ例>

テーマ	内 容 の 一 部
医療	チーム医療・緩和ケア・尊厳死・医師不足・製薬・生活習慣病・出生前診断・遺伝子
教育	教育格差・学力低下・コミュニケーション能力・大学入試改革・いじめ・キャリア教育
科学技術	人工知能・遺伝子技術・放射能・科学者の倫理・女性科学者育成・無人探査機
環境問題	環境政策・異常気象・生物多様性・自然破壊・温暖化防止・低炭素社会
政治・経済	18歳選挙権・貧困・構造改革・民主主義・一票の格差・貿易・株式
社会福祉	ボランティア・介護・バリアフリー・公共の福祉・社会的弱者・人権
地域社会	地域の活性化・地域の産業や経済・コミュニティ・高齢化・限界集落・地元企業の話
日本	日本型思考・建築様式・風土・歴史認識・遺跡
国際	内戦・難民・民族問題・途上国・国際貢献・開発援助・異文化理解・グローバル社会
情報	個人情報保護法・IT革命・知的財産権・電子マネー・マスメディア

他には、「女性・こども」「スポーツ・健康」「震災と復興」等、グループ数(3～4人/班)によって調整。班分けもテーマの割り振りもすべてくじ引きで行った。





### <生徒感想>

私は日頃から新聞記事を読んだりということはないので、今回の探究は自分にとって、ためになることがたくさんありました。自分の班のテーマであった「慰安婦問題」についてはよく耳にしたことがあったけど、知らないことがたくさんありました。でも、今回の取り組みのおかげで自分の知識も増え、社会に対する興味も前より持つことができるようになったので、とても良い経験ができました。

初回の発表は、時間にせかされて上手くチームワークを発揮できなかった。2回目はこの反省を生かしてチームワークを発揮できた。少ない時間でより分かりやすい発表にするには、言葉が必要最低限におさえて、無駄な間をなくし、ポスターをもっと活用する必要があると感じた。他の班の発表もよい参考になった。

まだまだ内容のまとめ方が甘かったと思います。もともと経済などの分野は苦手なので、この機会にもっと触れてみようと思った活動でした。新聞の内容をもっと読み込めていたらなあと感じました。質問されても上手く答えられなかったです。何かに伝えるときは、情報の準備が必要だと感じました。

初めてポスターセッションを行ってみて、ほとんど自分の知らないことが取り上げられていて良い機会となったし、自分たちに対して質問されるときに、他の視点から物事を考えることの大切さを学びました。そして一番良かった点は、ポスターを作るまでの記事集めの中で、「あ、こんなこともあるんだ！」という新たな発見が多かったということです。

ポスターを使いながら発表するのはやはり難しいと感じた。新聞の記事の内容を伝えるには発表だけでなく、ポスターで目に見えようにすることも大事だと分かった。特に新聞記事は文字が小さく見えないので、大きい文字にして書いておけば良かった。発表の声の大きさと聞く態度は良くできた。特にたくさん質問できて、とても充実した活動にできた。

今回、福祉について考えました。いつもはあまり考えないし、ニュースもそこまで気にしないけど、よく記事を読んでもみると「知るべきだな」と思いました。障がいのある人とそうでない人とが共生し尊重し合う社会づくりに励むことで、誰もが同じように生活できるようになるのだと思うので、社会に目を向け生活できる自分でありたいと感じました。

### <評価の仕方>

65回生（1年生）探究講座「社会の問題に迫ろう！」ポスターセッション感想用紙

1班	2班
<p>【質問】</p> <p>① どのチームが 2 4 0 8 10</p> <p>② 発表時間 2 4 0 8 10</p> <p>③ 伊の山さき・滝川幸子・藤原・高橋の4名 2 4 0 8 10</p> <p>④ ポスターの活用 2 4 0 8 10</p> <p>⑤ 資料の構成・充実度 2 4 0 8 10</p> <p>⑥ 発表力 2 4 0 8 10</p> <p>合計 1 1 点</p> <p>【コメント】</p> <p>ポスター (資料の構成)</p> <p>ポスター (発表力)</p>	<p>【質問】</p> <p>① どのチームが 2 4 0 8 10</p> <p>② 発表時間 2 4 0 8 10</p> <p>③ 伊の山さき・滝川幸子・藤原・高橋の4名 2 4 0 8 10</p> <p>④ ポスターの活用 2 4 0 8 10</p> <p>⑤ 資料の構成・充実度 2 4 0 8 10</p> <p>⑥ 発表力 2 4 0 8 10</p> <p>合計 1 1 点</p> <p>【コメント】</p> <p>ポスター (資料の構成)</p> <p>ポスター (発表力)</p>

1班	2班
<p>【質問】</p> <p>① どのチームが 2 4 0 8 10</p> <p>② 発表時間 2 4 0 8 10</p> <p>③ 伊の山さき・滝川幸子・藤原・高橋の4名 2 4 0 8 10</p> <p>④ ポスターの活用 2 4 0 8 10</p> <p>⑤ 資料の構成・充実度 2 4 0 8 10</p> <p>⑥ 発表力 2 4 0 8 10</p> <p>合計 1 1 点</p> <p>【コメント】</p> <p>ポスター (資料の構成)</p> <p>ポスター (発表力)</p>	<p>【質問】</p> <p>① どのチームが 2 4 0 8 10</p> <p>② 発表時間 2 4 0 8 10</p> <p>③ 伊の山さき・滝川幸子・藤原・高橋の4名 2 4 0 8 10</p> <p>④ ポスターの活用 2 4 0 8 10</p> <p>⑤ 資料の構成・充実度 2 4 0 8 10</p> <p>⑥ 発表力 2 4 0 8 10</p> <p>合計 1 1 点</p> <p>【コメント】</p> <p>ポスター (資料の構成)</p> <p>ポスター (発表力)</p>

65回生（1年生）探究講座「社会の問題に迫ろう！」振り返り感想用紙

1班	2班
<p>【質問】</p> <p>① どのチームが 2 4 0 8 10</p> <p>② 発表時間 2 4 0 8 10</p> <p>③ 伊の山さき・滝川幸子・藤原・高橋の4名 2 4 0 8 10</p> <p>④ ポスターの活用 2 4 0 8 10</p> <p>⑤ 資料の構成・充実度 2 4 0 8 10</p> <p>⑥ 発表力 2 4 0 8 10</p> <p>合計 1 1 点</p> <p>【コメント】</p> <p>ポスター (資料の構成)</p> <p>ポスター (発表力)</p>	<p>【質問】</p> <p>① どのチームが 2 4 0 8 10</p> <p>② 発表時間 2 4 0 8 10</p> <p>③ 伊の山さき・滝川幸子・藤原・高橋の4名 2 4 0 8 10</p> <p>④ ポスターの活用 2 4 0 8 10</p> <p>⑤ 資料の構成・充実度 2 4 0 8 10</p> <p>⑥ 発表力 2 4 0 8 10</p> <p>合計 1 1 点</p> <p>【コメント】</p> <p>ポスター (資料の構成)</p> <p>ポスター (発表力)</p>

相互評価を集計し平均値を出す+自己評価

### 3. 成果と課題

#### 【成果】

実践目標1について、何が必要で何が足りないのか等を、生徒自身が自覚できた。

実践目標3について、図書館との連携、学年内での役割分担ができつつある。

#### 【課題】

①実践目標2に関する生徒個人々の意識差←まだまだ差が大きい。

②生徒に考えさせる時間の確保←過密なスケジュール（SHR・HRA・探究においてもなかなか確保できない。）

# 新聞を通して社会と向き合い行動できる生徒の育成

大分県立別府青山高等学校・別府翔青高等学校 教諭 畑野 新司

## 1. はじめに

本校の学校教育目標である「積極的に社会に参加する、責任と良識ある市民の育成する」を達成するためには、生徒自らが社会の動向や出来事に関心を持つことは必要不可欠である。さらには、関心を持つだけでなく、自分が社会とどのように関わりを持つべきかを主体的に考えることができるような力を学校の教育活動全体を通して図る必要がある。その教育活動を実践するために本校では「新聞を通して社会と向き合い行動できる生徒の育成」を実践テーマに掲げた。

## 2. 具体的な取り組みと期待される効果

- 1) 各教科における新聞記事を活用した授業実践と教材の集約
  - ・授業改善のための、思考力・判断力・表現力の育成
  - ・単元導入時における、生徒の興味・関心を引き出す
  - ・単元のまとめ段階での、既習事項の確認・深化と発展的思考に導く
- 2) 新聞閲覧コーナーの設置
  - ・新聞に慣れ親しむ習慣の育成
- 3) 全校一斉の新聞記事の読み取り
  - ・自分の興味関心外にある新聞記事を読むことによる視野・意識の広がり
  - ・時事に関する記事を読むことによる知識の蓄積
  - ・小論文指導の一環
- 4) ホームルーム活動での社会への関心を高める取り組み

- ・自分の考えをまとめ、表現する力の育成
- ・自分と異なる考えに耳を傾け、それを認めようとする姿勢・態度の育成
- ・一つのテーマに係わる主体的、協同的な学習活動を通じたクラス作り
- ・計画的、意図的なホームルーム活動の推進
- ・小論文指導の一環

## 3. 具体的活動に移すための役割分担

取り組み	役割分担／内容
1	授業改善P T
	各教科主任が主導し実践、報告 授業実践のまとめ（資料管理）
2	教務・司書教諭・司書
	閲覧コーナーの設置と管理 バックナンバーの管理
3	年次部・学科主任
	朝読書の時間を活用した朝N I Eタイムの実施（第2・4水）
4	教育企画・年次部
	HRAでの活用

## 4. 成果と課題

取り組みがスタートして間もないことと、N I E実践の取り組みのテーマが、本校の学校教育目標にも深く関わりを持ったテーマであるため、実践による成果と限定し、示すことは難しいが、具体的活動にあげた四つの取り組みがスタートして、教職員も生徒も取り組みの意図を理解して実践していると感じている。

授業改善プロジェクトチームによる授業実践の取り組みでは、授業導入時に新聞の記事を紹介し、授業内容の興味、関心を引き出すことや習得した知識を確認するなどの実践を重ねている。このことは、知識習得のためのNIEと、更に知識を活用するためのNIEであると考えることができる。

閲覧コーナーでは生徒が新聞を広げる場面も見られる。コーナーの壁には生徒が部活動等で取り上げられた記事を掲載するなどの工夫をし、生徒の目線に合った場となりつつある。

朝NIEタイムやHRAでの実施は、学年や学科が記事を選ぶことで、生徒の学びのタイミングに合った内容を提供できているのではないかと感じている。さらに、学校司書による記事に関連した書籍の紹介もあわせて行っており学びの深化を導いている。

これらに対する課題は、いくつか考えられるが、本取り組みのテーマに沿って計画性をもった資料の提供が継続してできるかということである。そのためにも教職員が新聞を教育活動の有効なツールとして認識することが重要であると考えられる。

## 5. 実践事例の紹介①

共通教科「情報」では、今年度以下の単元で新聞の活用を行った。

第5章「情報社会と社会」の著作権の例外規定  
第3章「問題解決のためのコンピュータ活用」  
の問題解決

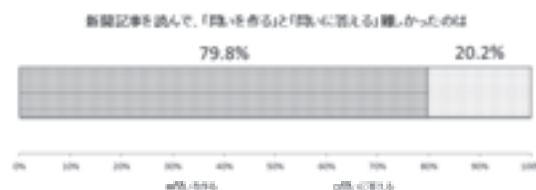
第5章では、新聞の記事を引用する際に必要な参考文献の書き方を学習した。また、学校司書と協力して、新聞記事の読み方について指導を行った。その結果、新聞記事の見出しやリード文、執筆者の存在などを知ることができた。生徒の感想にも「参考文献の書き方を知ることができた」という内容が多く見られた。しかし、

この1時間だけで新聞記事を読み取る理解が深められるとは言えないため、教科内で振り返りの設定も行っている。具体的には、定期考査に簡単な読み取り問題を入れたり、学校司書を中心とした他教科での実践などが挙げられる。今年度、比較的早い時期での学習が、他の学習に繋がっていったと感じている。さらに欲を言えば、計画性を持った授業実践を行う必要があげられる。

第3章の問題解決では、4時間構成で新聞の活用を行った。4時間の授業内容は以下の通りである。

- 1 時間目・・・複数の新聞社による記事の違い
- 2 時間目・・・新聞記事から問いを作る
- 3 時間目・・・新聞記事を読んで問いに答える
- 4 時間目・・・記事のなぜを調べる方法を知る

4時間終了後に、生徒に「問いを作る」場合と「問いに答える」場合の難しさを調査した結果以下の結果であった。



上の結果から分かるように、生徒は問いを作る作業に苦勞している。つまり、これからの生徒に必要なことは「問い」を作るような実践ではないだろうか。

1時間目に使用した新聞は以下の8社である。

新聞名	執	記事見出し
大分合同		自動運転 20 年実用化
毎日	有	トヨタ自動運転車公開
読売	有	自動運転車 20 年実用化へ
佐賀		「自動運転車」高速道を快走
宮崎日日		自動運転車 20 年実用化
西日本		20 年に自動運転実用化
産経	有	手放しで合流も車線変更も
東京		「高速の自動運転」20 年にも

1 時間目についてだけ簡単に紹介する。

まず、各記事を利用する際に必要な情報の振り返りを行い、次に、記事見出しを元に、内容の読み取りを行った。2 度目は 5W2H を意識させながら重要と思うキーワードに線を引かせた。その後、グループ内で情報の共有化を図った。また、記事がいくつの文で構成されているのかなど何度も記事を読ませる工夫を凝らした。最後に私が用意した質問に答えさせる取り組みを行った。質問は、与えられた記事の中に答えがあるかないかという簡単な内容とした。各班で読んでいる記事によって書かれていない内容があり、多く生徒には良い経験になったようだ。

[質問の内容]

- ・ 6 日に自動運転技術を公開したのはトヨタ
- ・ 自動運転は首都高速道路で行われた
- ・ 今回の技術に GPS が使われている
- ・ 白線に沿ってカーブを曲がることができた
- ・ 実験者に記者も同乗していた など

この取り組みを通して、新聞記事は、執筆者によって情報の切り取りが行われていること、また、必ずしも記事に書かれていることが全てではないので、複数の情報と比較するクロスチェックが必要であることを伝えることができた。最後に、自動運転技術の開発の賛否について少しだけ生徒の意見を聞いた。今回の記事は、自動運転技術を使うという前提の記事であるが、中には必要ないという意見もあった。記事に関しては逆側の立場に立って読む視点が必要と感じる。その意味ではこれからの生徒には、批判的な見方を養わせる取り組みが必要ではないだろうか。

教科「情報」の試験問題

百崎浩嗣、『防犯カメラ大幅増』、大分合同新聞、2015 年 11 月 20 日、夕刊、11 面

- (1) 新聞記事を参考文献として利用する場合に、出典に必要な情報を上の新聞記事の中から六つ書き出さない。

項 目	正解の割合
日付 (2015 年 11 月 20 日)	85.3% (54.5%)
新聞社名 (大分合同新聞)	83.8% (53.5%)
朝夕刊 (夕刊)	82.3% (53.5%)
記事見出し (『防犯カメラ大幅増』)	83.3% (53.0%)
執筆者 (百崎浩嗣)	81.3% (52.0%)
掲載面 (11 面)	68.2% (47.0%)

- (2) 以下の問いの答えを新聞記事から探し、解答用紙に答えよ。

- ① 防犯カメラを設置した理由は、歓楽街の人気調査のためである。正しいと思う場合は○、間違っている場合は×を書きなさい。  
[正解 88.9%]
- ② 防犯カメラの映像は、個人情報の観点から警察から要請があった場合にも提供しない。正しいと思う場合は○、間違っている場合は×を書きなさい。  
[正解 80.8%]
- ③ 今回、都町の防犯カメラは新たに何台設置されましたか。設置された台数を答えよ。  
[正解 74.7%]
- ④ 撮影された映像は何日間、保存されるか。保存される日数を答えよ。  
[正解 87.4%]
- ⑤ 防犯カメラを設置したのは何という団体ですか。団体名を答えよ。  
[正解 72.7%]
- ⑥ 今回、都町に設置された防犯カメラの費用のうち、大分市都町連合会が負担した金額は全体の何%にあたるか。答えは整数値で答えよ。  
[正解 25.3%]

## 事例②

ホームルームでは、新聞記事を使ったスピーチコンテストを実施した。(3時間)

1時間目…新聞記事の選択と記事の整理

2時間目…グループ毎に発表(5人)、代表決定

3時間目…クラス内発表(1人2分)

1時間目は紹介したい新聞記事選びを行った。家で新聞記事を選び、持ってきた生徒もいたが、学校図書館で用意した新聞から記事を選ぶ生徒も多かった。新聞を購読していない家庭も多く、久しぶりに新聞に触れる生徒もいた。改めて新聞を手に取り、楽しそうに新聞を読む姿が印象的であった。

記事の整理の仕方に関しては、ワークシートを使いながら行った。

- ・ワークシートは記事見出しをもとに「メインメッセージ」を考えさせる。
- ・メインメッセージのもととなる補足情報を記入させる。
- ・それによる影響や意義などを整理させる。

その後、以下のように整理させた。

- ・なぜこの記事を選んだのか。
- ・記事を読んでどのように思ったのか。
- ・意見や提案(賛成、反対やアイデア、解決案等)

以上のワークシートを完成させた後、スピーチ原稿を書かせた。



## 事例③

朝NIEタイムの設定

本校では、朝の10分間を使って、朝読書を実施している。秋以降、毎月第2・4の水曜日を朝NIEタイムとして新聞記事を読ませる取り組みを行っている。



記事を読んで、問いに答える形式となっている。終了前に、解答例を配布し、自己採点を行い提出する。時間が限られているため、記事に対して自分がどのように関わりを持つべきかを書かせるまでの取り組みは出来ていない。



# 「学び合い、つながり合う学級・学年づくり」

～NIEを活用し、共感的人間関係を目指した授業の工夫～

臼杵市立北中学校 教諭 永松 芳恵

## 1. はじめに

本校は昨年度まで、生徒一人ひとりが自ら学び、自分の考えを相手に伝える表現力を育成するため、様々な研究を進めてきた。中でも、NIEの取り組みは3年目を迎え、身近な新聞記事を学習材料として活用し、授業の中で生徒同士が対話を深めることにより、表現力や学習意欲の向上に効果的だった。さらに、コラムの視写やワークシートを取り組む中で、国語をはじめとした学ぶ意欲も向上した。

多くの収穫のあった昨年度の研究だったが、課題は、生徒の実態に個人差があり、表現方法や日常生活での指導、表現できる集団の雰囲気作りが必要ということや、小中の連携、学習意欲が低い生徒への指導とかかわり方にあった。今年度はさらにNIEを活用し授業内容を深めることで、生徒同士の共感的人間関係を目指したい。そのため、『学び合い、つながり合う学級・学年づくり』～NIEを活用し、共感的人間関係を目指した授業の工夫～という研究主題を設定した。

NIEの実践テーマと研究主題を重ねたことにより、昨年度以上に「学校全体で実践する」意識も高まりを見せた。

## 2. 実践の概要

### (1) 実践テーマの設定

「学び合い、つながり合う学級・学年づくり」～NIEを活用し、共感的人間関係を目指した授業の工夫～

#### NIEの学年目標

- 1年部～ NIEを通して、お互いに学びを伝えあうことができる。
- 2年部～ NIEを通して、自分の考えを持ち、お互いに交流し伝えあうことができる。
- 3年部～ NIEを通して、自分の考えを的確にまとめ、お互いに伝えあうことができる。

(2) 実践内容（昨年に引き続き、全教科・領域でNIEを活用した授業を実施する。）

- ①全校で実施
- ②研修と連動
- ③NIE担当の連携
- ④系統的、計画的な実践

## 3. 具体的な取り組み

### (1) 全校で実施

県大会を行った昨年に引き続き、「学校全体でNIEを活用し、実践していく。」という共通理解のもと、環境設定（つくる）、実践活用（つなぐ）そして研究発展（ひろげる）の3つの視点を設け実践した。

- ①環境設定（つくる）
  - 全校NIEコーナーの輪番制
  - 学年NIEコーナーの工夫
  - 図書室と図書室周辺のNIEを充実
  - 職員室NIE書籍・資料置の利用
- ②活用実践（つなげる）
  - 全校NIEタイムの継続
  - 学年・学級・教科通信で記事の利用
  - 各授業で系統的に活用
- ③発展（ひろげる）
  - 研究授業・互見学活・互見授業
  - 新聞社GTによる新聞講座
  - 生徒による新聞作り
  - 地域・保護者・PTA活動の連携



\*北中職員作成の、「HAPPY NEWS」↑

\*大分合同新聞社員による「新聞の書き方講座」↓



## (2) 研修と連動

昨年に比べ、NIEの目標を研修テーマと重ね、各学年目標を詳しく決めて実践できたことは大きな飛躍である。全校で取り組む姿勢も持ちやすくなった。\*「(1)実践テーマの設定」参照

### ①1年生の実践

#### ○常時活動

NIE タイム(隔週火曜日 8:00~8:25)実施。

コラムの視写

通信や授業で新聞記事の利用

#### ○生徒による新聞作り

##### ・夏休み歴史新聞

社会科の宿題で「歴史新聞」を作成。65人全員が興味のある時代や人物を取り上げ、1人1枚新聞を仕上げた。

##### ・夢新聞の作成

総合的な学習の時間において、進路学習と連動させ、文化祭作品として1年生全員(65名)の「夢新聞」を作成。授業時間に、自分の興味のある職業について調べたことを記事にした。



夢新聞の展示風景



#### ○校内研修による提案授業

《2016年1月27日(水)5時間目実施》

夢新聞をもとに、職業や興味のある出来事についてグループ分けを実施。合計10グループのメンバーがICTを利用してスライドを作成。当日の授業は、体育館にて1年生全員によるグループ毎にプレゼンテーションを披露。会場の見学者(同級生・教職員・保護者)とポスターセッションを行った。

#### ・題目「自分たちの学びを伝えあおう。」【総合】

指導者 金子敦・足立智治・石丸由美子・後藤真理・後藤美咲

対象生徒・人数 1年生65名

#### ・ねらい

分かりやすく要点をまとめ伝えることができ発表を聞いて、感じたこと、分かったことを自分の言葉でまとめることができる。

#### ・指導による成果

1学期より22時間かけて授業を組み立てた1年部の協力体制が素晴らしく、充実した新聞作りやICT機器を利用した授業の見本となった。

グループ分けや発表のしかたに対しては賛否両論あったが、1年生の発達段階では努力の跡が見える発表だった。個人が作成した「夢新聞」もプレゼンテーションでもっと利用すると良い。



\*1月28日(木)大分合同新聞朝刊

### ②2年生の実践

#### ○常時活動

NIE タイム(隔週火曜日 8:00~8:25)実施

コラムの視写と感想

通信や授業で新聞記事の利用

読み聞かせと作文活動

#### ○生徒による新聞作り

##### ・はがき新聞の作成

夏休み職場体験を経て、2学期に職場体験新聞を作成。昨年度と同じように、保護者のコメントも入れてもらう。仕上がったものは職場体験新聞集として、生徒1人1冊、事業所に1冊届けた。事業所の方からは大変好評だった。

文化祭でも展示を行い、地域の方にも見て頂いた。

##### ・修学旅行新聞の作成

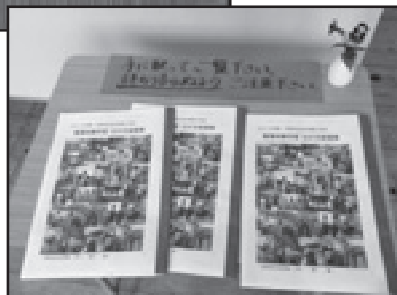
文化祭に合わせ、修学旅行先をグループに分け、模造紙大の巨大修学旅行新聞を作成。色鮮やかで個性的な新聞が仕上がりました。



修学旅行風景切り絵とともに体育館に展示をした。



\*文化祭で展示された  
職場体験はがき新聞  
(冊子)と修学旅行新聞



#### ○校内研修による提案授業

《2015年6月17日(水)5時間目実施》

最近の社会情勢を受け、子どもたちの間では SNS によるトラブルが絶えない。PTA 研修部も、市内 PTA 研修にて同じテーマを取り上げ、講演会を行った。

この授業は、北中生 SNS 使用実態をテーマに、今後の生活における SNS の在り方を生徒に投げかけたものである。保護者や地域との連携もキーワードとして実践した。

- ・題目「情報機器についてディベートをしよう！」

【学活】

指導者 足立盛一

対象生徒・人数 2年1組 30名

- ・ねらい

新聞記事を参考資料に使うことによって、内容に深みを持たせ、より現実に即したディベートを意欲的に行うことができる。

- ・指導による効果

社会問題として常に話題に上がり、家庭において使用方法等を親子ともども考える良い機会となった。その後、授業や講演会の感想を「読者の声」に送り、掲載されたことでより、SNS に対する考えが深まった。



\*授業の様子

《2015年9月9日(水)5時間目実施》

2学期最初の授業研も2年生で行った。社会科の単元「九州地方～再生可能エネルギーと原子力発電～」を扱い、国内の課題である「原子力発電再稼働」について意見を交わした。

- ・題目「再生可能エネルギーと原子力発電」

指導者 薬師寺将大

対象生徒・人数 2年2組 31名

- ・ねらい

地域の特色を生かした再生可能エネルギーを理解し、原子力発電が求められる理由を考えることができる。

- ・指導による効果

生徒は課題に対して興味があり、意欲的に取り組めた。特に、時事問題に対して関心が高く自分の考えを一生懸命交流していた。教師側は ICT 機器の使い方が学べた。



\*授業の様子

#### ③3年生の実践

##### ○常時活動

NIE タイム(隔週火曜日 8:00~8:25)実施

受験に向けて NIE のページを利用

通信や授業で新聞記事の利用

##### ○校内研修による提案授業

《2015年11月4日(水)5時間目実施》

今年の校内研のテーマに「NIE を活用し、共感的人間関係を目指した授業の工夫」を掲げ、特に全校で道徳は力を入れて研究をしている。3年生の授業では、新聞記事の投稿欄から感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさや大切さを考えた。

- ・題目「言えなかったありがとう」【道徳】

指導者 藤澤辰彦

対象生徒・人数 3年1組 39人

・ねらい

多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに気づき、それに感謝し、答えようとする態度を育てる。

・指導による効果

3年生の時期をとらえて、授業できたことは、今後の生徒指導にも役立つと感じた。挨拶等はその後できる生徒が増えた。



\*授業の様子

(3) NIE 担当の連携

今年度は、職員が15名(全体の75%)入れ替わった。新しいNIE担当者や職員に実践を理解してもらうまでは時間がかかったが、全職員が積極的に取り組むことができた。NIEの効果を共有し、学校現場に広げるために校内の連携は大切である。共通理解の会議を数多くは持つことができなかつたが、大分県実践交流会への新規参加や新しいアイデアの投入等、前向きに交流できた。

特に、全校NIEコーナーの学年輪番制や校内研修における授業研、日常のNIEタイムや授業等充実した取り組みが展開された。

各学年、たくさんの取り組みを経て、基礎基本テスト(大分県・臼杵市)や定期テストでは、国語の力が向上している。その他の教科も、毎日の学習活動が高く評価された。



\*輪番制の全校NIEコーナー



(4) 系統的・計画的な実践

①総合的な学習の時間

昨年度、教育課程に合わせ、NIE活用表を作成した。今年度は、それをもとに系統的な授業を展開できた。一例が総合的な学習の時間である。1年次の職業調べから2年時の高校調べ、3年時の体験入学の報告等、生徒が作成した新聞やまとめを中心に、ポスターセッション、プレゼンテーションそしてグループ学習の実践が展開された。生徒にとって、進路学習の充実につながり、目標を持って学校生活を過ごす礎になっている。



\*高校新聞を作成する2年生

②NIE活用表の更新

今年度は、年間4回のNIE授業研を行い全職員、事後研究で意見交換ができた。現在は、今年度積み重ねた資料をもとにNIE活用表の更新に取り組んでいる。

③部活動でもNIE

本校美術部は、20人生徒が在籍している。活動計画に「新聞で作る年賀状」や「切り抜き新聞グランプリ」を入れ、個性的な作品を制作できた。



\*美術部制作

「新聞で作る年賀状」㊤と「切り抜き新聞グランプリ」㊦

4. 成果と課題

指定校3年目を迎え、学校全体で取り組みが軌道に乗った。NIE目標も全校で達成できた。授業改善や学力向上対策としても、成果を上げている。

課題は「継続は力なり」といわれるように、現在の活動を続けることである。継続することで生徒たちの心の成長を目指していきたい。

# 保健体育科における NIE

～新聞の活用と新聞から課題を探し、課題解決を図る～

大分市立滝尾中学校

村上重行

## 1. 保健体育科の取り組み

### (1) 保健体育科の目標

「集団行動の確立を基盤とした、  
体力向上の取り組み」

### (2) 取り組み内容

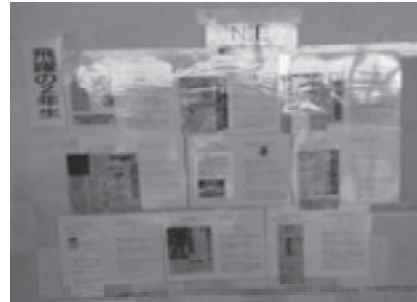
- ①学期当初の徹底した集団行動様式  
の完全定着
- ②年間を通して、授業開始時の柔軟  
運動・補強運動の実施
- ③保健分野・体育理論等における  
新聞などを使った調べ学習
- ④各部活動の外回り清掃と花いっば  
い運動の取り組みにより部活動の  
活発化を図る

## 2. 保健体育科での NIE 実践

### (1) 長期休業を利用した取り組み

#### ①保健分野について

- 1学期に行った体力テストや健康  
についての授業を通して、内容を  
深化させるために『健康に関する  
記事とその記事を1文字で表現  
しよう』というレポート作りを行  
った。

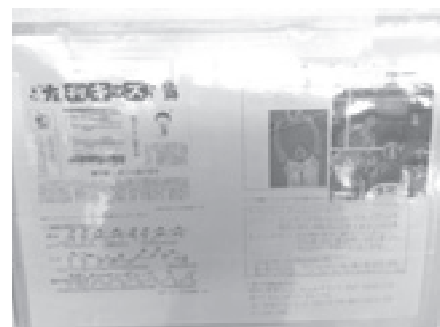


(健康に関するレポート)

- 傷害の防止の授業を受け、冬休み  
を利用して、年末年始にかけての  
交通事故の記事を取り上げ、要因  
を考えるレポート作りを行った。

#### ②体育分野について

運動における「こつ」について、  
自分自身で新聞の写真を元に、調  
べ学習を行った。



(運動の「こつ」についてのレポート)



(体育館にあるNIEコーナー)

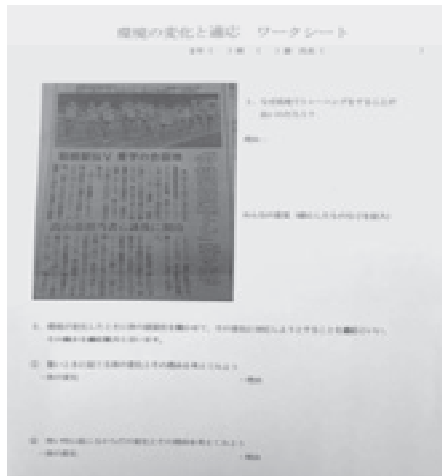
## (2) 授業における新聞活用

### ①保健分野について

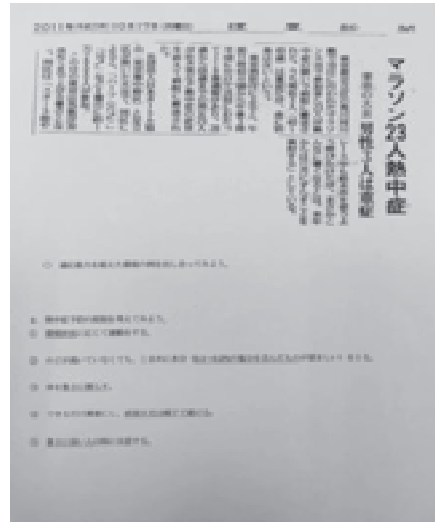
2年生保健分野

「環境の変化と適応」について

高地トレーニング、熱中症の記事を取り上げ、高地トレーニングから期待される効果などを班で話し合い、発表させることによって、適応についての学習を深めさせた。



(環境の変化と適応 ワークシート1)



(環境の変化と適応 ワークシート2)

### ②体育分野 (体育理論) について

2年生体育理論

「運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果」について

スポーツのルールやマナーを考えさせるために、新聞を使って導入を行った。



(授業で活用した新聞記事)

③体育分野（体づくり運動）について

◎教具としての新聞利用

○敏捷性向上のため

- ・新聞紙を小さく丸め、間隔をおいて置くことで、ラダートレーニングとして活用

○瞬発力向上のため

- ・立ち高跳びとして活用
- ・立ち幅跳びの目標設定として新聞を置き、練習を行った
- ・腹部に新聞を広げて、その新聞が落ちないように走った

○仲間との交流を楽しむため

- ・新聞紙の上に何人が乗れるかを作戦を立てながら実践した

運動技能の習得には、「こつ」をつかむことが大切だとわかっているが、なにが「こつ」であるかは、実際運動をすることによって見い出され、運動能力によって差が出るのが必然である。

しかし、新聞を活用して運動を分析し、自分で「こつ」を考えながら行うことができれば、実際運動して習得するより早く技能が向上するのではないか、という仮定の下、来年度の発表に向けて準備を進めていきたい。

### 3. 実践の感想と今後の課題

NIE について、保健体育科の取り組みは3年目を終えようとしている。

体育分野では、新聞を教具として活用することで、生徒がケガ等を恐れずに課題に挑戦し、意欲的に活動する場面が見られ、今後も教具として活用する可能性を感じることができた。

また、保健分野においては、各単元について新聞記事を活用することが可能であり、単元の導入やまとめに活用することができ、生徒の思考力・判断力を育て発表することによって、表現力を高めることができた。

来年度の発表に向けて、体育理論や体育分野での新聞活用を考えている。

# 磨き合う力の育成

～思いや考えを意欲的に述べ合う新聞活用を通して～

大分市立判田中学校 教諭 進 麻美

## 1. 本校の生徒の実態

本校はNIEの取り組み2年目を迎えた。今年度は新聞を活用する意義を生きた教材を教育に導入することで、生徒自身が生きている社会を題材に見つけ、考え、解決する力を培うことができ、生徒の学ぶ意欲を高め、生徒自身の主体的な学習意欲の向上を図ると捉えている。また、継続的に新聞を読むことで、ものの見方や考え方や感じ方が広がり、それを伝え合う（言語活動）ことで他者理解が生まれ、社会の一員として共に生きる意識を持つことをねらっている。

各学年のフロアには新聞を設置したことで、生徒たちにとって毎日新聞のある生活が当たり前となり、新聞を手にする姿が各学年で見られる。毎日の1分間スピーチでは事件や事故だけではなく、3年生は政治に関する問題についても自分の意見を述べるようになった。今後もさらに授業実践や環境整備を継続し、新聞の活用から磨き合う力を育成していきたい。

## 2 本校研究主題について

### 主題設定の理由

本校は平成26年度から「磨き合う力の育成」を研究主題とし、サブテーマを「思いや考えを意欲的に述べ、聴く、学級活動の指導を通して」として3カ年計画で取り組んでいる。昨年度は学習環境整備として「発表のマニュアル」「板書の構造化」「SGE・SSTの書籍コーナー設置」を行い、発表の仕方や聞き方の基本的事項の共通理解を図り、「今日の課題」や「まとめ」や「今日の学習」の板書用プレートを作成し、授業で活用した。

昨年度は学年部で発表のマニュアル指導や事前アンケートによる生徒の実態把握をした。短学活における1分間スピーチの継続や学校行事を通して生徒間の相互理解を深め、事後指導として通信や作文により思いを共有させたり、教師が生徒理解にQ-Uを活用することで、学年間で生徒に対する共通理解が深まった。さらに話し合い活動の授業実践として学級活動や教科や短学活の実践を通して、互いが思いや考えを意欲的に述べ、聴くようになり、磨き合う力のある生徒の育成に取り組んだ。

昨年度の取り組みから見えてきた課題や問題点として、「磨き合う力のある生徒に変容したか確かめるのが難しい」「研修における意欲化、協働性をどう高めるか」「教師のニーズにどう切り込むか」「積み重ねが必要」「学年ごとに実働したので他学年の動きが見えづらく残念。学年ごとに温度差があった。」

「短学活を除くと、生徒同士が互いの意見を練り合うための十分な時間（機会）が確保できなかった気がする。」「十分に時間がとれない」「発表、発言、話し合いの活性化を図る必要がある」など、2年目に向けての改善点が明らかになった。

そこで本年度はサブテーマを「思いや考えを意欲的に述べ合う新聞活用を通して」とすることで、昨年度は幅広く土台づくりに取り組んだ研究主題への迫り方を新聞活用に焦点化した。新聞を活用する意義は生きた教材を教育に導入することで、生徒自身が生きている社会を教材に課題を見つけ、考え、解決す

る力を培うことができる。生きた教材を扱うことで生徒の学ぶ意欲が高まり、生徒自身の主体的な学習意欲の向上が図られる。また、継続的に新聞を読むことで、ものの見方や考え方や感じ方が広がり、それを伝え合う（言語活動）ことで他者理解が生まれ、社会の一員として共に生きる意識を持つことができる。

新聞に興味・関心を持たせる学校環境づくりとして、図書館や各学年のフロアやNIE教室を利用し新聞の閲覧コーナーを設け、生徒が興味を持った記事を紹介する活動や新聞各紙のコラムの視写を朝自習に取り入れ、わからない言葉については自分で調べたり、コラムの内容についての感想を書き、それぞれの感想を共有させる。実際の授業での新聞活用として、各教科や学級活動や道徳で新聞記事を授業内容に関係する資料としての活用や各教科の学習内容と社会をつなぐ資料としての活用、読解力を育てるための活用、思考力や判断力や表現力を育むための活用、メディアリテラシーを育むための活用、素材としての活用などが考えられる。

今年度は来年度のNIE全国大会を見据え、各学年で学級活動か道徳のどちらかで新聞記事を取り入れた提案授業を年3回実施し、来年度の方向性を明らかにしたい。

#### 研究仮説

教科や学級活動、道徳の時間において、新聞を効果的に活用することで、生徒の興味、関心を引き出すことにより、自ら表現しようとする態度が培われ、互いに思いや考えを意欲的に伝え合い、磨き合う生徒が育つであろう。

#### キーワード

新聞の効果的活用、自ら表現しようとする態度・伝え合う・磨き合う

- めざす子ども像【磨き合う力】がある生徒
- 自分の身近な出来事に興味関心を持ち、自ら調べようとする生徒
  - 互いに伝え合うことで、視野が広がりものの見方・考え方が深まる生徒
  - 物事を表面的に捉えるのではなく、本質に迫ろうとする生徒

#### 研究の方向性（めざす授業）

- (1) ひとりひとりが意欲的に発言する授業づくりのために、新聞記事を活用する。
- (2) 生徒が主体的に思考し、根拠を示して発言する授業づくりのために新聞を活用する。
- (3) 聴き合い、教え合い、学び合う授業づくりのために新聞記事を活用する。
- (4) 学んだことをまとめ、発信するため、新聞製作を年に一度はする。

#### 研究内容

- (1) めざす授業づくりについての共通理解と実践
  - 新聞が身近にある学習環境の整備
  - 新聞を活用した授業実践例の紹介と共通理解
  - 思考力・判断力・表現力を養うための新聞活用の授業のあり方
  - メディアリテラシーを育むための新聞活用のあり方
- (2) 学年研・個人研による授業づくり
  - ①学年研
    - 道徳または学級活動での実践を各学年2回ずつ実施（2回のうち1回を提案授業）
  - ②個人研
    - 1、2学期に教科を中心に新聞を活用した授業を実施
    - 道徳・特活・短学活で積極的に新聞を活用する。

### 3 1学期の取り組み

#### (1) めざす授業づくりの共通理解と実践

- ①新聞が身近にある学習環境に整備
  - ・各学年がフロアに新聞を読むコーナーを設置。いつでも新聞を見ることができる。
  - ・NIE 教室を設置。いつも各紙の新聞を見ることができる。
- ②新聞を活用した授業実践例の紹介と共通理解
  - ・校内研究で先行事例を紹介(道徳、国語、社会、数学、理科、英語)
- ③思考力・判断力・表現力を養うための新聞活用の授業のあり方
  - ・各教科による授業実践
- ④メディアリテラシーを育みための新聞活用のあり方
  - ・短学活における1分間スピーチ
  - ・1、2年生は朝自習を利用し、コラム欄の視写や意味調べや要約
  - ・ひとつの出来事を複数の新聞を用いて多面的に捉える授業実践

#### (2) 学年研・個人研による授業づくり

##### 3年1組 道徳について

###### ○単元について

- ・学年の実態から目指す生徒の姿を決め、目指す生徒の姿を決め、目指す姿へ近づくための教科(新聞や読みものなど)を探し、指導計画を立てる。
- ・単元設定の理由を明確にし、授業のねらいを明らかにする。

###### ○NIE の活用

『ともに生きる』という主題で道徳と学級活動を組み合わせた5時間の学習を考えた。本時は個性の強い集団が「1年間欠席0」という目標を掲げたことで、お互い励まし合い、支え合えながら目標を達成した記事をつかい、仲間と「つながり合う」こ

とが自分自身も成長させることに気づかせたい。また、この記事が道徳の資料『わたしからのVサイン』の主人公わたしが仲間のおかげで「ありのままの私」でいこうと決意したこととつながることで、本時のねらいとする寛容・謙虚という価値をひき出すことができると考え活用した。

###### ○指導主事より

- ・良かった点…導入が自分たちの身近な話題を取り上げ、シンプルにまとめ、新聞記事の活用も有効であった。
- ・課題…新聞記事の内容と道徳の価値項目が一致していない。原因として道徳の読み物資料として取り上げた資料が生徒作文であり、価値が混在していたことがあげられる。作文の中の混在している価値の中から中心となる価値を引き出すことが必要。

### 4 2学期の取り組み

#### (1) 2年3組 学級活動について

##### ○題材 自分の知らない自分を知ろう

「自己及び他者の個性を尊重」

##### ○生徒の実態

学級内で認め合うことが少ないと感じる生徒26名。自己理解を深め、自分の知らない自分を知る。本当の自分の力を発揮したり、自分の良い面を伸ばしたりする意欲を引き出したい。

##### ○指導のねらい

自分やクラスメイトについて様々な視点から幅広く見つめることを通して、他者に共感して思いやる心を育み、お互いのよさを認め合う心を育てる。

##### ○NIE の活動

自分を見つめて自己理解に努めるだけではなく、他者の目から見た自分を知ることで新しい自分に出会い、自ら成長していった記事から、今後広い視野で自分を見つめ、自分の



知らない自分を知ろうとする意欲を持たせたい。

#### ○授業を終えて

学級活動にNIEを取り入れ、終末でまとめとして新聞記事を使用した。子どもたちとの対話が少なかった。新聞を扱った教師の意図が明確に伝わるためにも、もう少し時間が必要ではなかったか。

#### ○指導主事より

対話は難しい。日頃の学級活動が大切。NIEの有効性…生徒の姿からしかわからない。発言させる場面がほしい。新聞の活用…授業のねらいを達成する記事であることが必要。日頃から新聞を読む。授業を活用する。

### (2) 1年4組 学級活動について

#### ○題材 職業人について学ぼう

#### ○生徒の実態

漠然としている職業意識について自分を知ることやどのような職業があるかを知ること、職業人の考え方の違いや「働くこと」の意味や大切さを理解させたい。

#### ○指導のねらい

進路選択の際「どのような仕事をして、どんな生活をしたいか」という将来の夢や希望を持ち、働く上で何を大切にしたいかを考え進路選択をすることが大切だということに気づかせる。

#### ○NIEの活用

子どもたちはまだ自ら進んで新聞を読むことは少ない。「今」を生きる人の生の声を短時間で数多く知ることができる新聞を活用し、「働くこと」の意味や大切さを理解させたい。

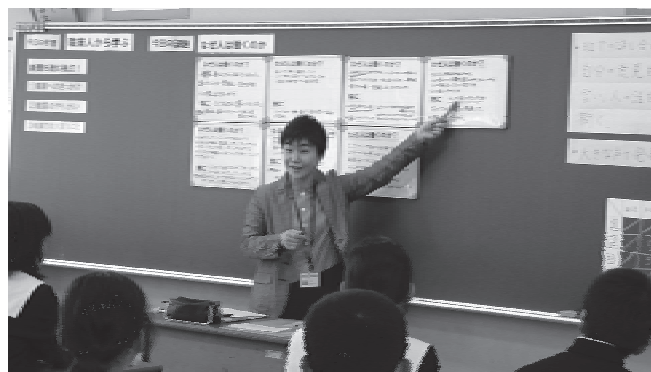
#### ○授業を終えて

学級活動に新聞記事そのものを使用した。記事の選択は授業のねらいに合わせて選び、ねらいは達成した。子どもたちの主

体的な活動が話し合い活動で見ることがこ  
とできた。

#### ○指導主事より

職業人の記事から自分だったら何が大切かを考える授業だった。本時の「まとめ」については教師によるまとめは必要ない。子ども自身が振り返って書けばよい。特別活動や総合的な学習は自分自身がどう考えたのかが必要。ピラミッドチャートにして、いくつかの価値の中からひとつに決め、今後の自分の生き方を決めるという方法もあった。「読む」よりも「語る」子どもへ。成長できる可能性があるなのでやってみてほしい。



### 5 来年度へ向けて

新聞を「導入」「まとめ」「展開」に用いることで、表現力を育む研究ができた。今後は多角的、多面的な記事集めや集団における支持的風土の育成、アクティブ・ラーニングをさらに日常化し、表現力を高める取り組みを継続していきたい。



# 主体的・協働的な学びをめざして

中津市立東中津中学校 教諭 長松 涼子

## 1. はじめに

本校は今年度からNIE実践指定校となり取り組みを始めた。昨年度までは、「新聞」を学校全体で組織的に且つ意識的に活用した経験はなかった。家庭の『新聞購読』割合は53%で、新聞を読んでいる生徒の割合も3割程度と少ない現状からのスタートであった。

本校では、NIEの活動を、本校の研究テーマ「生徒が意欲的な学習をする指導のあり方」に迫るための一つの手立てとして位置づけている。生徒が主体的に学び、思考力、判断力、表現力をつけていくには、教科書教材以外の副教材の活用は不可欠であり、その一つとして「新聞」は有効なツールであると考えている。

## 2 実践の概要

### (1) 東中タイムでの全校一斉の取り組み

毎週火曜日 8:15～8:45

- 〈1年生〉 ・コラム視写・記事の要約  
・記事を読んで自分の意見を書く
- 〈2年生〉
- 1学期 ・コラム視写・記事の要約  
・記事を読んで自分の意見を書く
- 2学期 ・おすすめ記事のスクラップ  
・ハッピーニュース  
・ハガキ新聞
- 3学期 ・切り抜き新聞  
・新聞記事を使った活用問題

〈3年生〉

- 1学期 ・記事を読んで自分の意見を書く  
(説得力のある根拠、字数制限)  
・班で意見交換
- 2学期 ・社説の比べ読み・書評・投稿文
- 3学期 ・新聞記事を使った活用問題

〈東中タイムの取り組みの成果〉

1年生は年間を通じてワークシートに取り組んだ。制限字数の中で説得力のある意見を書いたり、速く正確に読んだりする力がついてきた。

2年生は2学期以降、自分の関心のある記事をまとめたり、新聞を作成したりするようなアクティブな活動に移行していった。

3学期には、大分合同新聞社の井上記者に出前授業に来ていただき、切り抜き新聞の作り方についてご指導いただいた。これらの活動から、新聞に興味を持ち楽しんで取り組む姿が見られた。

3年生は、教科の授業(国語と社会)の発展として活用することが多かった。例えば、国語の授業で学んだ批評文や社説の学習の応用問題を出题するなど、教科の授業との関連を意識して試みた。また、入試対策を意識して活用型の問題にも取り組ませた。複数の資料と関連させて読む力や、時事問題への関心が高まった。

1年目の段階では、まずはすべての生徒に新聞活用の効果を体験させようというスタンスで、全校一斉の取り組みに力を入れた。生徒たちにもNIEという言葉が浸透し、新聞に親しむ態度が見られるようになった。



## (2) 各教科での取り組み

### ①新聞を使った単元の開発

◆2学年 数学科 単元名 「どちらがお得？」(一次関数の利用)

◆単元の指導目標

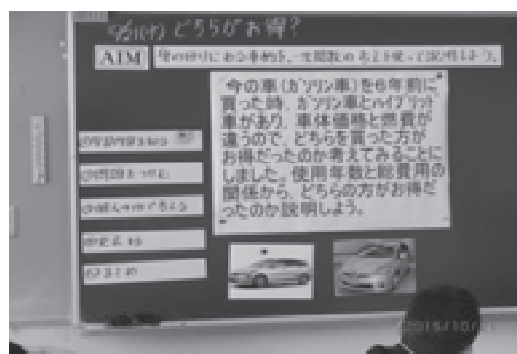
- (1) 事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知ることができる。
- (2) 一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解することができる。
- (3) 二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。
- (4) 一次関数を用いて具体的な事象を捉え説明することができる。

◆単元の指導計画と評価計画(4時間扱い)

時 (本時)	学習活動	評価規準と評価方法			
		関心・意欲・態度	見方や考え方	技能	知識・理解
1	ガソリン車において、使用年数と総費用の関係が一次関数の関係になっていることに気づき、表・式・グラフで表す。	○二つの数量の関係を、表・式・グラフで考えようとしている。 (観察、ワークシート)		◎二つの数量関係を一次関数の考えを用いて表現・処理することができる。 (観察、ワークシート)	○二つの数量関係において、傾きや切片が表すものを理解することができる。(観察)
2	ガソリン車とハイブリッド車の使用年数と総費用の関係を、一次関数を利用して比較する。		◎一次関数を用いて調べた結果を根拠に比較・判断することができる。(ワークシート、小テスト)	○二つの数量関係を一次関数の考えを用いて表現・処理することができる。 (観察、ワークシート)	
3	3社のプリント会社のTシャツの枚数とプリント代金の関係をグラフで比較し説明する。		◎グラフからわかることを根拠に比較・判断し、説明することができる。(観察、ワークシート)	○二つの数量関係を一次関数の考えを用いて表現・処理することができる。 (観察、ワークシート)	
4	LED電球と電球形蛍光灯と白熱電球の使用時間と総費用の関係を比較し、判断する。		◎一次関数の考え方を根拠に比較・判断し、説明することができる。(観察、ワークシート)	○二つの数量関係を一次関数の考えを用いて表現・処理することができる。 (観察、ワークシート)	

一次関数は生活のなかでもよく使われている。

生徒たちに、一次関数は自分たちの生活と結びついたものであると実感させるために、ハイブリッド車の記事が載った新聞を使い、生徒の意欲づけを図った。



◆2学年 国語科

単元名 「年齢制限引き下げ」私はどう思う

～ 選挙権、飲酒・喫煙、成人年齢引き下げについて話し合おう～

◆単元の指導目標

< 指導目標 >

- ・身近な法律の「年齢制限引き下げ」に関する話題に関心を持ち、新聞記事やインターネットから必要な情報を集め、自分の意見の根拠材料にすることができる。
- ・「年齢引き下げ」に関するテーマについて話し合う活動を通して、相手の考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討しながら自分の考えを広げることができる。

< 指導事項 >

- 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。 [ 話す・聞く ア ]
- 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。 [ 話す・聞く オ ]
- 相手や目的に応じて、話の形態や展開に違いがあることを理解すること。 [ 言語に関する知識・理解・技能 ]

◆単元を貫く言語活動

単元を貫く言語活動として、「身近な法律の『年齢制限引き下げ』について自分の意見を新聞に投稿しよう」という活動を位置付けた。「年齢制限引き下げ」に関する三つのテーマについて、それぞれバズセッションに取り組むことを通して、自分の考えを主張するだけでなく、相手の考えを尊重したり、互いの発言を検討して共通点や相違点を聞き分けたり、テーマについて別の立場や視点から考えたりしながら、自分の考えを広げることをねらっている。

② 各教科での授業実践

<国語>

- ・新聞記事から根拠を見つけ批評文を書こう
- ・「ネット社会の光と影」について意見文を書こう

<社会>

- ・軽減税率 ・一票の格差 ・夫婦別姓 ・国の予算 ・円高  
※タイムリーな記事や大分合同新聞の「新聞で新聞を読む」
- ・新聞記事を使って入試予想問題作成

<理科>

- ・「電気とその利用」家庭の電気はなぜ対流か?の記事

<英語>

- ・新聞記事から自分の理想像を探し不定詞を使って紹介する。

<道徳>

- ・平和や人権に関する授業



新聞を活用した授業づくりに難しさを感じる職員も多かったが、まずは導入段階からでも使ってみようということで取り組みを進めた。職員自身が使えそうな新聞記事を日頃からストックする取り組みも始めた。来年度からの取り組みにつなげていきたいと考えている。

### (3) 新聞コーナーの設置

9月より新聞協会と各新聞社の補助により、6社の新聞が届くようになった。そこで生徒が新聞をより身近に感じられるように、また、読みたくなったときにいつでも読めるように、図書室前に手作りの閲覧用の台を設置した。

前日の新聞はカゴにストックしていくので、授業で使いたいときに取りに来たり、必要な記事を探したりするのに便利であった。



図書室前の閲覧台の様子

### (4) 学校司書との連携

中津市では、「学校図書館から NIE を！」をスローガンに掲げて、新聞も図書資料の一つとして位置づけている。

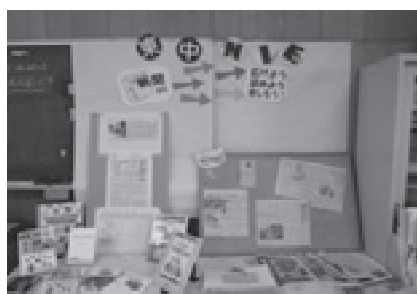
中津市では、中津市学校司書連絡協議会を毎月1回開催しており、その中のNIE研究グループに属する学校司書が、研修を積んで様々なノウハウを身につけている。

NIEグループが作成した「NIE実践事例集」は市内全校に配布され、活用されている。

本校でも、学校司書と共に、環境整備や授業、東中タイム等で連携を行っている。

#### ①学校図書館にNIEコーナーを設置

朝の東中タイムで扱った新聞記事に関連する書籍コーナーを作り、全校生徒に紹介する。



#### 〈成果〉

朝の東中タイムで読んだ記事からさらに関心を広げることができるので、生徒にも大変好評であった。時事問題に関する生徒の意識を高めるのにも大変役立った。このコーナーから授業に発展させることもできた。

#### ②新聞記事のスクラップ

学校司書が、テーマごとに記事のスクラップ集を作成。授業者が使いたい記事を集めてくれるなど、授業で新聞活用をすすめるうえで、学校司書の存在は大きなものとなっている。



#### ③NIEコーナーの掲示物作成



新聞構成の知識



トップニュースの比較

### 3. 今後の取り組み

今年度は、環境整備と東中タイムの段階的取り組みに重点を置いた。NIEという言葉が職員や生徒に浸透し、新聞を身近なものとして受け入れる土壌ができたように思う。

とりわけ、学校司書との連携の効果が大変大きく、今後も授業での具体的な関わり等で成果を上げていきたいと考えている。

来年度は、全教職員でNIE実践を進めていく体制づくりや、授業での活用に努めていきたい。

# 新聞を活用した言語能力の育成をめざして

～読解力・思考力・表現力の伸長～

豊後高田市立高田中学校 教諭 鈴木 惟真、桑原 美香

## 1. はじめに

本校は、平成23年度からNIE推進協議会実践指定校として「新聞による言語能力の育成をめざして」の研究主題の下、2年間研究を行ってきた。主に、新聞を活用した授業実践、毎週木曜日に「NIEの時間」を設け、新聞を使ったワークシートに取り組んでいた。その後も、「NIEの時間」は引き続き行っており、新聞を身近に感じる素地は持っていると思われる。

全校生徒の実態を確認するために行ったアンケートによると、

- ・約40%の家庭は新聞を購読していない。
- ・新聞を「あまり読まない」「読まない」と答えた生徒が約80%（1年生）

学校での「NIEの時間」に、さまざまな記事をもとにしたワークシートに取り組んでいるが、自ら新聞を読み、新聞から情報を得て考えたり、社会に目を向けてみたりという面はまだまだであることがわかった。

これらの結果から「多様な種類の記事に触れ、社会の動きに関心を持たせること」の必要性を確認した。過去数年間の実践指定校としての歩みを基として、研究を進めていく。

## 2. 今年度の取り組み

今年度は、来年度の全国大会に向けて「NIE実践指定校」となり、「新聞を学校生活の中に取り入れ、活用していくか」という方向で実践をすすめてきた。

### (1) 新聞を身近に感じさせる取り組み

(2) 授業等を通して、思考・判断・表現する力を伸ばす取り組み

の二つの視点で活動を行っていくこととした。特に(2)については、「授業改善～課題解決に向け、思考・判断・表現する授業づくり～」の研究主題の下で課題解決にせまるツールのひとつとしての新聞活用を試行していった。

## 3. 具体的な実践の概要

(1) 新聞を身近に感じさせる取り組み

①NIEコーナーを設置し、新聞に親しむ環境を作る。(NIE担当や生徒会広報部の生徒が新聞の切り抜き等を掲示する)

②新聞コーナーを各階と図書館に設置し、朝読書や休み時間等に読める環境をつくる。

③図書館司書による新聞ミニトーク

(毎朝、図書館司書が朝読書の時間に、各教室をまわり、ブックトークを行っている)あわせて、新聞の記事をひとつ紹介する新聞ミニトークを行い、朝読書の時間に新聞を読むこともすすめている。

④新聞を利用したスピーチ(主に帰りの会)新聞記事をひとつ選び、スピーチする活動。



- ・記事内容を簡単に紹介する。
- ・なぜ、この記事を選んだのか。
- ・感想を言う。 の流れで行っているクラスが多い。発表時には、実影投影機で記事を映し、視覚的にわかりやすい工夫をしているクラスもある。発表後は、発表資料を掲示し、ゆっくり読む機会を設けている。

#### ⑤新聞づくり講座

7月8日に大分合同新聞社の三股さんを、招いて1年生を対象に新聞づくり講座を開いた。この学習をいかして、夏休みの課題として「夏休み新聞」を作成した。



⑥「切り抜き新聞グランプリ」の作品づくり  
大分合同新聞社主催の「切り抜き新聞グランプリ」の作品づくりを通して、新聞を読み、友達と交流し、意見を出し合いながら、作品を完成させる喜びを味わってほしいというねらいで取り組んだ。まずテーマを話し合うグループ、新聞を読み進めるグループ、気になった記事をどんどん切っていくグループ、様々な姿が見られたが、楽しそうに取り組んでいた。



(2) 授業等を通して、思考・判断・表現する力を伸ばす取り組み

#### 国語

##### ○2年説明文

「メディアと上手に付き合うために」  
新聞について調べ、協調学習によって調べたことを交流し、「新聞と上手に付き合うためにどうするか」を考える。



○2年説明・発表「印象に残る説明をしよう」  
学級壁新聞の見出しについて、クラスのみんなにむけて、プレゼンテーションをする授業。

##### ○1年古典「竹取事件簿をつくろう」

「竹取物語」を題材にしたミニ新聞の作成。  
リード文の書き方、5w1hなどを実際の新聞から学び、「竹取ミニ事件簿新聞」を作成する授業。

#### 社会

##### ○3年公民「選挙の仕組みと課題」

読売新聞ワークシートを資料にして、「選挙に行かない人を行かせるにはどうしたらよいか」について考える授業。

##### ○2年地理 「接続可能な社会をつくる」

阿蘇地方の畜産業の進め方を<人々の頑張りや思い><国や地方公共団体の取り組み><ボランティア>の視点から考える。

## 音楽

○3年 「曲の背景を知って、名曲を味わおう」  
図書館のある音楽に関する本を調べ、「作曲者について」「楽器について」初めて知ったことなどをミニ新聞にまとめた。

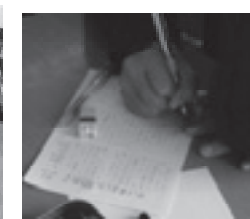
## 道徳

○2年 「国際貢献」  
「ゼロ戦復活」と「天皇陛下のフィリピンでのあいさつ」の二つ新聞記事を読んで、「日本の高い技術を世界に役立てよう」とする考えを育むというねらいの授業。

## 学活

○1、2、3年 「学級壁新聞づくり」  
「これまでの学級の歩み、軌跡を振り返り、壁新聞にまとめ披露することで、学級の団結を図る。」というねらいのもと、文化祭の目玉の取り組みのひとつで長い歴史がある。クラス全員でつくすることで、学級の歩みを自らふりかえるよい機会となるが、新聞構成力や文章力、記述力など生徒の力には差が大きく、この機会を通して、少しでも個々の力を伸ばす方策を考えた。

今回の取り組みでは、前段階の学習として全校生徒でミニ新聞の作成を行った。そのミニ新聞をひとつの材料としながら、クラスで壁新聞に仕上げていった。



ミニ新聞を書いている



壁新聞作成中



校内文化祭での展示

## ○ミニ新聞づくり

- 1年 「夏休み新聞」「体育大会新聞」
- 2年 「修学旅行新聞」「体育大会新聞」
- 3年 「体育大会新聞」

## 各教科領域

### ○「NIEの時間」の実践

毎週木曜日に「NIEの時間」を45分間実施している。主に、NIE担当が作成したワークシートに取り組んでいる。

ワークシートの内容

- ① 4月23日(木) … JRおおいたシティ(1年) 清原伸彦、団体行動(2、3年)
- ② 4月30日(木) … 県立美術館
- ③ 5月14日(木) … ゆっくり地震
- ④ 5月21日(木) … 保健所犬
- ⑤ 6月11日(木) … 藤川球児
- ⑥ 6月25日(木) … 沖縄慰霊の日追悼式
- ⑦ 10月1日(木) … 東京五輪5競技追加提案
- ⑧ 10月8日(木) … ノーベル医学生理学賞  
大村智教授
- ⑨ 10月15日(木) … ふるさと納税
- ⑩ 10月22日(木) … 難民
- ⑫ 11月12日(木) … おおいた車いすマラソン
- ⑬ 11月25日(木) … 国語に関する世論調査  
「やばい」「ぼかし言葉」
- ⑭ 12月10日(木) … 水木しげる
- ⑮ 1月21日(木) … 成人式



⑯ 1月28日(木) …車いすテニス

上地結衣選手

⑰ 2月4日(木) …「9番目の惑星」

⑱ 2月18日(木) …献血

情報の読み取りを行い、自分の意見や感想を書くという流れを基本にワークシートを作成している。B4判で、裏面はコラムの視写を行う。内容は、各教科に関係するもの、道徳的な内容に関するもの、その時の社会に密接に関係するものなど、多様な内容に触れられるよう配慮している。また、表やグラフを多数載せている新聞の特性をいかして、表やグラフから情報を読んだり、そこから考えたりする内容をもりこんで作成したワークシートもある。

#### 4. 成果と課題

全国大会の実践指定校となって今までの取り組みを振り返り、試行錯誤しながら実践をすすめてきた。過去に実践指定校であったとはいえ、同じ生徒ではない。生徒の実態を見ながら、どんな力をつけたいのかをしっかりと確かめながら実践を積み上げていく必要がある。

##### 成果

- 生徒にアンケートを実施し、生徒の実態を確認した上で、軌道修正を行いながら実践をすることができた。
- 研究組織と連携しながら実践をすすめていくことができた。「授業改善」という研究テーマに沿って、ツールのひとつとして「新聞を活用する」視点が明確にできた。
- 朝読書、帰りの会のスピーチ、NIEコーナーの掲示(生徒会やNIE担当など)、ミニ新聞作成など、学校生活のあらゆる場面で、新聞を使った取り組みができ、多少とも新聞が学校生活の中で身近になってきている。朝読書の時間や昼休みに新聞を読む生徒の姿が見られるようになった。

- 「NIEの時間」やワークシートに関しては、「世の中のことや、最近の情報を得ることができるので意欲的に取り組める」「長い文章を読むことが速くなった」「集中して読めるので、雰囲気が好き」等の反応があり、良いイメージを持っている生徒も多い。また、「グラフや表を取り入れたワークシートは、情報読解力や情報処理能力を伸ばすことにつながっている」という声もある。

##### 課題

- NIEの研究組織として、各学年の担当や各教科の担当との綿密な連携がさらに必要である。
- 授業実践においては、新聞を活用しやすい教科と取り組みが進まない教科があり、すべての教科でどう実践を積み上げていくかという課題が残った。
  - ・各教科の教育課程の中に、新聞活用のカリキュラムが作成できることが望ましいが、新聞はその時の生きた情報でもあるので、固定的には決めつけられない面もある。実践の足跡を残し、進化させていく必要がある。
  - ・「教科の目標に迫るためにどのような新聞記事が適切か」という視点で新聞を選択していくので、教材として適切な新聞を選ぶためには、日頃からアンテナを高く、新聞に触れている必要がある。
- 今年度は、実践の方向性は確認したが年度当初に年間実践計画を立てていなかったため、計画的に実践を行うことが難しかった。計画的な実践が必要である。

# ひとりひとりが思いや考えをもち、伝え合い、高め合うことができる子どもの育成 ～N I Eを生かして～

大分市立寒田小学校 教諭 平山 立哉

## 1. はじめに

本校の子どもたちは、授業の課題に対して自分なりの考えを持ったり、それを交流し合い、おたがいの考えを広げたり深めたりすることが十分にできていなかった。

そこで本校では、昨年度N I Eの研究指定を受けたことをきっかけに、新聞を利用して子どもたちの思考力・判断力・表現力を育てたり、社会的関心を高めたりすることができないか考えた。

そして、N I Eを生かして、ひとりひとりが思いや考えをもち、伝え合い、高め合うことができる子どもの育成をめざし研究を進めていくことにした。

## 2. 平成27年度の実践の概要

### (1) 「研究主題」の確認

昨年度の『研究のまとめ』を検討し、現状を把握した。その結果、まだ新聞を効果的に活用できていないことが問題としてあげられた。そこで、「発達段階に応じて、新聞を効果的に利用するためにはどうすればよいか」を課題として設定した。

マンダラシートを使ったワークショップなどを通して、「新聞効果的に活用できていない」背景や原因を探ったり、その解決のための手立てを協議したりした。「新聞社に協力を依頼する」「教師が教材研究をする」「各学年の系統性をはっきりさせる」などの意見が出されたが、昨年度の研究の流れが間違っていないことも確認できたため、平成26年度の研究主題を継続して研究に取り組んでいくことにした。

### (2) 授業実践

#### ① 日常実践

『親しむ活動』『新聞スクラップ』『新聞記事の読解』『コラムの視写』『新聞作り』などを引き続き行った。

『親しむ活動』では、低学年だけでなく高学年の子どもも「新聞工作」に取り組んだ。ブローチやスリッパや帽子、動物など

多彩な作品が作られ、新聞に親しみが増すことになった。

また『新聞作り』では、読み手を引きつける見出しをつけたり、本文を書いたりすることができるようになってきているにもかかわらず、書きなれてきたため作成に要する時間は短縮できてきている。

他の活動も、昨年度に比べ子どもたちの技能が大きく向上していることを実感している。まさに“継続は力なり”である。

#### ② 研究授業

『N I E大分県セミナー』に向けて3本の公開授業と、校内研修で1本の研究授業を行った。

#### 《1年国語》

#### 『おきにいのしんぶんしゃしんを、しょうかいしよう』

指導者 高木裕子

切り抜いておいたお気に入りの新聞写真に合う絵や言葉をかきこませ、となりの席の友だちや学級全体の前で、選んだ理由や思ったことなどを、姿勢や口形に注意して話させたり、うなずいたり質問を考えたりしながら聞かせたりする授業である。



1年生は、言葉を思い描いたりイメージを広げたりということが難しい段階である。そこで、自分の思いを広げはつきり話す、友だちの話に興味を持って聞くというねらいに迫るために新聞写

真を活用することにした。

新聞写真は

- ・様々なジャンルがあり、カラーで美しくカメラマンの思いも入っている。
  - ・実際に行ったりみたりしたことがなくても身近に感じ、イメージや思いを広げやすい。
  - ・聞く側も話の内容がわかりやすく、興味を持って聞くことができる。
- という良さがある。

以上のようなことから、言葉の力の不足を補い、思いを伝えたい、聞きたいという意欲につながり本時のねらいにせまることができ、ペアトークにつなげることができた。ペアトークでは新聞写真を選んだわけに加えて、本時で書きこんだ絵や言葉についても話す子どもの姿が多く見られた。

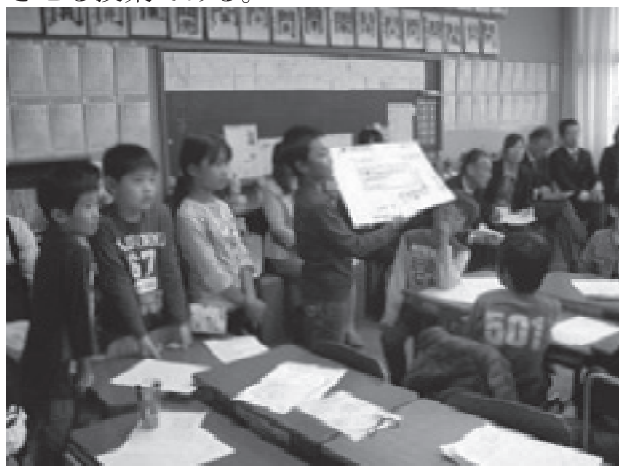
授業後も新聞写真への関心が続き、家からお気に入り新聞写真をもってきて紹介する子どももおり、新聞写真への意欲が持続していた。

#### 《 4年社会 》

##### 『交番新聞のトップ記事や見出しを決めよう』

指導者 姫野公徳

交番の仕事をみんなに紹介する新聞のトップ記事や見出しを何にするか話し合わせることにより、交番が地域住民と協力し、防犯活動を中心に行っていることについて理解を深めさせる授業である。



本単元の目標「地域社会における事故の防止について、調査したり資料を活用したりして調べさせ、人々の安全を守るための関係機関の働きと、そこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにした。そして、自分も地域社会の一員として、自分の安全は自分で守ることに気付かせる。」に対し、完成した新聞を見ても、十分理解できたと思う。実践については、今後も声かけを行って意識が途切れないようにしたい。

新聞を作ることで、学習のまとめを行うことは、調べたことや聞いたことをもとに考えを整理する手段としてとても有効であったと思う。

また、新聞社の方にゲストティーチャーとして新聞の作り方、作った新聞の講評をしていただいたことが、子どもたちの新聞作りの意欲を高めることにとても役立った。

新聞の見方も一緒に学習出来たので、新聞紙の記事を活用した授業に生かしていきたい。

交番が発行している「敷戸交番新聞」も使うとよかった。

本単元では、新聞記事からの活用は難しかった。日頃から授業に使えるような記事をストックしておく必要があると感じた。

#### 《 6年国語 》

##### 『平和な未来を築くために』

「自分たちにできること」とは、どんなことだろう』

指導者 山口竜一

平和な未来を築くために「自分たちにできること」について自分の考えを伝え合う活動を通して、自分なりの考えを持ち、「平和の誓い」をつくらうとする意欲を持たせる授業である。



本単元では、第1次に広島市のこども代表の「平和への誓い」の新聞記事、第2次では、大分県内の四つの戦跡の新聞記事（大分市の「最後の特攻」、日出町の回天基地、宇佐市の城井掩体壕、保戸島の空襲）を紹介し、自分の平和への考えを明確にしていくための資料とした。

第1次では、自分たちと同じ小学校6年生が作った「平和への誓い」という意見文を読むことで、自分たちにも書けそうだという気持ちをもつことができた。さらに、第2次では、広島や長崎だけではなく大分県内にも悲惨な戦争の傷跡があることを知り、四つの戦跡の新聞記事を読み込ん

だ。新聞に書かれた最近の記事を読むことで、現実離れしていた戦争について身近なものであることの認識ができてきた。また、自分の「平和への誓い」にその内容を入れようとする中で、さらに深く読み取ろうとする意欲も高まった。第3次で一人ひとりが「平和への誓い」の意見文を自分なりに満足できる内容で文章を書くことができた。そして、その意見文を大分合同新聞へ投稿することもできた。

以上のように、平和についての意見文を自分の意見を明確に伝える文章にするために、新聞を有効に活用できたといえる。

#### 《 2年図工 》

##### 『どんどん つなごう』

指導者 多々良真美

新聞紙を細長く切ったものをつなぐ活動を通して、友だちと情報交換したり協力したりしながら、自分の表したいものを作ったり、その表し方を工夫したりする活動である。

子どもたちは、新聞紙の造形的な材料としての



可能性を次々に発見し、つくりたい思いを形にしていった。新聞紙をつなぎながら、体全体でかわる活動を楽しむことができていた。つなげていくうちに思いついたことを作品に取り入れ、意欲的に取り組んできた。2年生は、作りながら考えたり、出来事に応じて作品が変わったりすることがある。発達段階に合った新聞活用だったと考える。

貼り合わせたり、袋状にしたり、包んだり新聞紙をつかった題材に一年を通して取り組んできた。今後も、新聞紙に慣れ親しんでいく活動を段階的に系統的に仕組んでいきたい。そして、表したいものや表し方を工夫する材料に、新聞紙を利用していきたい。全面カラーの新聞紙など、計

画的に来年度も各学年で集めていく必要がある。

研究授業に向けて、教材研究や指導案作りを時に当該学年部で、時に全教職員で行い、「発達段階に応じて、新聞を効果的に利用するためにはどうすればよいか」研究を進めることができた。

#### (3) 『年間計画』の加筆修正

昨年度作成した『年間計画』の実践を行いつつ、NIEが実践可能な内容を追加したり、さらに適した活動に差し替えたりした。これによって、毎月、さらに多くの教科でNIEを実践できる可能性が広がった。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												

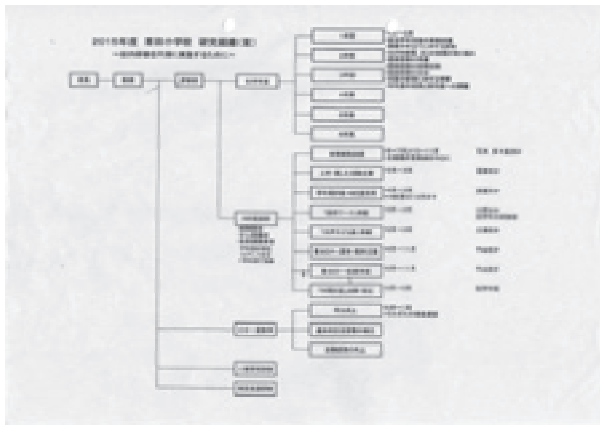
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												

#### (4) 組織編成と期間設定

昨年に引き続き4月から『新聞スクラップ』や『新聞記事の読解』などの取り組みを始めたが、研究を円滑に進めるために新たな校内研究体制を6月に編成した。従来の研修部、学年部のほか、昨年のNIEプロジェクトチームをさらに一歩進めたNIE推進部を発足させた。

研修部は、校内研究全体の運営、各学年部は、提案授業の準備が主な仕事である。

NIE推進部の活動内容や期間は、それぞれ異なる。期間限定で、学年部の枠をはずして少人数で編成し、全員複数参加が基本である。



《編成した推進部（期間）…活動内容》

- 新聞閲覧コーナー設置（6～7月、9～10月）…広報掲示委員会に、毎朝、6社分の新聞を図書室の閲覧コーナーにならべる。
- 工作・親しむ活動立案（6～3月）…ワークショップなどを通して、子ども達が新聞に親しめるような活動を職員に提案する。
- 学年掲示板・NIEルーム活用（6～3月）…学年掲示板には、子どもの作品を掲示する。NIEルームを図書室に移し、残しておきたい子どもの作品を展示できるようにした。それらの活動が円滑に行われるように連絡、調整を行う。
- 読解「読売ワークシート」印刷（6～3月）…1週間に1回「読売ワークシート」に取り組みさせることができるように、高学年の児童数分のワークシートを印刷し、各学級に配布する。  
\*低・中学年においても、取り組めそうな内容の「ワークシート」を印刷し、配布している。
- 視写「天声子ども語」印刷（6～3月）…1週間に1回「天声子ども語」に取り組みさせることができるように、高学年の児童数分のワークシートを印刷し、各学級に配布する。
- 『県セミナー』全体会会場計画（8～11月）…職員と立案した『県セミナー』の全体会会場案を関係諸団体と協議する。また会場に展示する作品や設営計画を職員に提案する。
- 『県セミナー』紀要作成（8～11月）…『県セミナー』で配布する紀要の提案、作成を行う。
- 「年間授業計画」加筆・修正（8～2月）…「年間授業計画」に位置づけた授業の実践し、さらに加筆と修正を行う。

#### 4. 成果と課題

「いつも、どこかでNIEが行われている。」  
まったく手探りの状態ではじめた昨年度から、理論研究や環境整備、研究授業や年間計画の作成を通して、研究を深化させてきた。現在では、校内を回ると、いつもどこかでNIEが行われていると言わしめるほど、NIEが教師にも子どもたちにも、身近なものとなってきている。

そして、この1年半の取り組みが積み重なり、子どもたちの読解力や資料活用能力、社会に対する関心が高まってきていることを実感している。

今後、NIEをさらに進めていくために、子どもたちが新聞に慣れ親しむよう環境整備をさらに進めたり、『年間計画』の加筆修正を完成させ、パッケージ化したりする作業が必要となってくる。また、研究授業に取り組んだり研究会に参加したりするなど教師の力量を高めたりすることも不可欠だろう。さらに、実践を進めるための予算の確保や大分合同新聞社、他の関係諸機関との連携を密にしていくことも必須である。

以上のことを念頭にさらに研究を推し進め、来年度8月の全国大会の成功につなげたい。

# 全校で取り組む楽しいN I E

## ～全校での活動と社会科での実践～

大分市立鶴崎小学校 教諭 本松 健一

### 1. はじめに

昨年度、本校がN I E全国大会の大分大会に向けた実践指定校に指定され、全校でN I Eに取り組むことになった。

1年目はできることから始めていこうと、特に環境づくりを中心に取り組んだ。N I Eコーナーの設置や高学年での新聞スクラップの取り組みなどを通して、子どもたちが毎日届く新聞を手取る環境はできたが、実際に新聞を活用するところまではいかなかった。

そこで2年目となる今年度は、「新聞を活用すると楽しい」ということを子どもが実感できるようにすることを実践として進めることにした。従って鶴崎小のN I E研究テーマを「全校で取り組む楽しいN I E」と設定し、新聞を活用した取り組みを通して、新聞を身近に感じ、私たちが暮らしている世の中に関心を持ち、主体的に考え、行動できる子どもを育てることを目指して実践を重ねていった。

### 2. 今年度の取り組み

今年度、本校での自分の分掌がN I E担当と4～6年の社会科専科等であったので、全校でN I Eに取り組む活動の推進と社会科での新聞の活用の2点について、重点的に取り組んだ。

#### ①全校での取り組み

##### ○新聞に親しむ活動について

- ・N I Eコーナーの充実（GODOジュニアの掲示、新聞記事の紹介、今日の新聞の一面、児童の新聞の作品の紹介など）
- ・新聞閲覧コーナーの整備

・GODOジュニアの配布（高学年）

・朝のN I Eタイム（毎週金曜日朝学習）

（低学年：かぶと折り、ひらがな探し、読売ワークシート、中学年：クイズや間違い探し、クロスワード、読売ワークシート、高学年：N I Eワークシート、コラム視写、新聞スクラップなど）

##### ○新聞を使った取り組み（インプットの活動）

・N I E年間計画案等をもとに、授業で新聞を使った取り組みの提案

・校内研修においてN I E研修の実施

・会議室に先生向けN I Eコーナーを置く（N I Eに関する各種資料の展示、各社N I Eワークシートの紹介など）

・新聞切り抜きグランプリに全校挙げて応募

##### ○新聞づくり・情報発信の取り組み（アウトプットの活動）

・学校・学年行事後の新聞づくり

・4年国語「新聞を作ろう」（大分合同新聞社三股秀明記者を招いての新聞紙面づくりの学習→社会見学の新聞づくり）

・新聞への投稿（GODOジュニア子ども記者リポート11月号に応募、5年で大分合同新聞読者の声に応募）

特に今年度始めた毎週金曜日の朝学習におけるN I Eプリントは、子どもたちも楽しく活動できて、とても有効であった。

また3学期に3～6年で「新聞切り抜きグランプリ」に取り組んだことが、新聞をもっと身

近に感じる活動として、実によかったと感じている。この取り組みは、大分合同新聞の方に出前授業に来ていただいて教えてもらいながら切り抜きの練習をした後、各クラスで行った。自分の興味のある記事を探して貼り合わせていく活動を通して、子どもたちは新聞に対して興味を持つことができた。

また、各担任が自主的に下記の実践に取り組んだ。

#### 【低学年】

- ・国語：「新聞紙を使ったけん玉の作り方を説明文に書いたり、使って遊んだりする。」
- ・図工：新聞に親しむ遊び
- ・体育：新聞紙を使った教具の利用
- ・「カタカナ探し」
- ・新聞で作った豆まき

#### 【中学年】

- ・総合：「学級新聞をグレードアップさせよう」
- ①各新聞を二人一組で見て、興味のある記事を見つけ、見出しを見る。②特徴を発表する。③自分のニュースにも見出しをつける。④見出しを考え、新聞を作る。

※4年 毎日のクラス新聞作り

#### 【高学年】

- ・算数：「拡大と縮小」…新聞社によって同じ写真の大小が違う
- ・道徳：「いじめ実態調査結果」
- ・特活：「ネットSNS意識調査結果」

#### 【特別支援教育】

- ・てるてる坊主作り
- ・記事探し、子どもニュース
- ・クロスワードパズル
- ・見出しを読み、漢字調べ

#### 【全学年での特活等】

- ・学級新聞を毎日発行
- ・まちがいさがし
- ・漢字読み
- ・GODOジュニアの活用

- ・朝のスピーチで新聞記事調べ など

#### ②社会科での新聞を使った取り組みの実践

##### 【4年】

- 「なくそう、こわい火事」

→消防署見学新聞づくり

- 「ふせごう交通事故や事件」

『鶴崎駅前交番月間ベスト交番賞受賞』の記事（2015年6月30日付、7月30日付大分合同新聞朝刊）→「新聞記事から鶴崎駅前交番の工夫や努力について考えよう」「地域の交通安全を守る人についての新聞づくり」

- ◎「地域の発展に尽くした人々～信念をつらぬき、鶴崎で教育につくした毛利空桑」『おおいたの偉人たち～毛利空桑』（2012年4月21日付大分合同新聞夕刊）を使い、「毛利空桑のすばらしさを考える」「毛利空桑新聞作り」

- ◎「地域の発展に尽くした人々～別府観光の発展に力を尽くした油屋熊八」『おおいたの偉人たち～油屋熊八』（2015年1月17日付大分合同新聞夕刊）「油屋熊八の情熱を考える」

- 大分県の市町村ごとの新聞切り抜き（予定）

毛利空桑と油屋熊八について、大分合同新聞の『大分の偉人たち』を導入で用いて授業展開をしたことは、実に効果的であった。人物の肖像もあるし、難しい漢字にはふりがなもあり、人物の全体像がうまくまとめられている。後の調べ学習や聞き取りをしたまとめをする際にも、新聞で書かれていたことを思い出しながら振り返ることができた。

##### 【5年】

- 新しい米をつくる（品種改良について）→『青天の霹靂・つぶぞろい…新ブランド米続々 競争も過熱』の記事（2015年9月23日付朝日新聞）

- 貿易をめぐる問題→『TPP合意』（2015年10月5日付大分合同新聞朝刊）

○水産業→『かぼすブリ勢い増す』（2014年12月10日付・12月20日付、大分合同新聞朝刊）  
『マンガで読む二豊雑学関アジ・関サバの巻』（1991年12月2日付大分合同新聞夕刊）

◎「暮らしを支える情報」～大分合同新聞社の工夫や努力について考える。新聞の作り方や大分合同新聞の工夫や努力について、新聞社の方に話を聞く。

○「情報ネットワークの問題点」→『情報化の問題についての各種新聞記事』（近年の大分合同新聞のいくつか）を提示。

新聞記者の方に話を聞いたり、記者の道具を見せてもらったりしたことで、子どもたちは新聞に対する興味が大きくなった。また、新聞を身近に感じるようになり、新聞の課題について真剣に考えることができた。これまで以上に新聞を読もうという感想に書く子が多くいた。

### 【6年】

◎わたしたちの願いと政治のはたらき→『鶴崎地区の国道197号の4車線化を検討』（2014年7月1日付朝日新聞大分版）～「政治のはたらき」について考える。

新聞記事から、大分県や大分市が渋滞緩和と鶴崎中心部の活性化を目的に、住民の要望を聞きながら計画を進めていることをつかむことができた。その後の出前授業にて地方自治や税金の使われ方を、この身近な事例を元に話をしていただくことで、子どもたちは自分の問題として考えていくことができた。15年後に完成予定ということで、未来の鶴崎の姿にも想いを馳せることができた。

### 3. まとめ

○児童へのアンケートの実施

4～6年の児童に、NIEに関するアンケートを行った。結果が下記ようになった。

#### 1. 学校での取り組みについて

① NIEコーナー（3階渡り廊下）や新聞コーナー（1階階段横）で新聞や掲示物などを読んだことがありますか。（単位は%）

よくある	たまにある	あまりない	ない
13	40	28	19

② 朝のNIEプリントの取り組みは楽しいですか。

とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
21	52	17	10

③ 授業での新聞を使った活動や新聞作りは楽しいですか。

とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
42	42	9	7

2. 新聞の取り組みを通して、感じることにについて

① 新聞を身近に感じるようになりましたか。

とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
27	48	17	8

② 世の中のことに興味を持つようになりましたか。

とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
23	52	17	8

③ 自分の考えを持ち、表現するようになりましたか。

とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
14	44	31	11

○アンケートの結果からの考察

新聞がすぐ近くにあることで、手に取る児童は多く見かけた。ただ置いてあるだけや貼ってあるだけでは、なかなか子どもたちが読むまでに至らないことも分かった。

NIEプリントの取り組みでは7割、新聞を使った活動や新聞作りは8割を超える児童が楽しいと答えた。やはり、良質の記事を意図的に子どもに出合わせる機会を作ることが大切であ



る。そうすれば子どもたちは新聞を楽しんでいると感じてくれることが分かった。特に新聞切り抜きが楽しかったという声が多かった。新聞とのいい出会いになる取り組みであると感じた。

「新聞を身近に感じた」「世の中のことへの興味・関心を持った」という項目については75%の児童が肯定的にとらえており、取り組みの成果としては、ある程度達成できたのではないかなと思う。

「自分の考えを持ち、表現する」ことについては、今後も継続していくことが必要であると考え。新聞を読み取る能力はある程度の学力が必要であり、そこは本校児童の実態として厳しさを感じる所でもある。しかし楽しいと思う活動を繰り返すことで、意欲化につなげていければと思う。

#### ○今後の全校での取り組み

職員へのアンケートで「新聞が身近になった」「新聞に興味を持ったと保護者から連絡があった」「個人差があるが、一人で新聞にまとめることができた」「短時間で楽しくやれた」などの声があり、楽しく活動ができる可能性を感じていくことができたと思う。

また、「学習の（1時間の）どの段階で使うかによって新聞資料が活かされる。資料提示も全てを見せる（渡す）のではなく、本時に必要な部分だけにする・必要な部分に囲みや線を引いたものを渡すなどの工夫がいたると思った」「新聞書きで、まだ日記的に書く子どももいる」という課題も明らかになった。

発達段階に合わせた新聞の活用を進め、新聞がより身近になることで、言語活動の充実へとつながり、本校の課題である学力の向上にも一役買うことが期待できる。また世の中の事象への興味・関心は高まっているので、今後は自分

の考えを持ち表現する力をより高めていければ、社会を生きる力につなげていけると感じる。

#### ○社会科における新聞の活用について

社会と向き合うNIEを目指す上で、社会科で新聞を活用することは、大きな意義があると思う。4～6年の社会科専科としてNIEに取り組めて、あらためて自分自身勉強になることが多かった。

教材となる事象についてとらえるときに、新聞は誰がいつどこで、何を何のために、どのようにしたのかが分かりやすい。それらを授業の中で整理すると、事実をしっかりと受け止め、教材により興味を持つことができた。

また、それが地域教材であれば、自分の生活をつなげて考えることができ、より自分の問題としてとらえ、調べたり考えたりするエネルギーとなることが改めて実感できた。

今回、単元の中で新聞記事を、どの場面でのように使うかを意識して指導計画を考えていった。教材との出会いや理解という点で新聞は実に効果的で、その中で見つけた問題について見たり聞いたりして解決しようとする学習は、子どもたちの意欲化につなげることができた。

今回4～6年の社会科で新聞を意図的に使う活動を組み込んだことは、地域を愛し大切にす心を育て、未来に目を向け切り拓く力を育てることに役立ったと感じる。

社会科専科という担当を与えてくれ、支えてくれた管理職始めNIEに協力してくれた先生方に感謝したい。また、来年度の全国大会に向けて、新たな実践を模索していけたらと思う。

# 子どもの「情報を取り出し再構成する力」を育てる指導 ～NIEの手法を取り入れた実践と分析を中心に～

大分市立舞鶴小学校 教諭 若杉 健志

## はじめに

本校は、NIEの取り組み3年目を迎えた。これまでの2年間は、高学年を中心に新聞記事を活用した授業実践、環境整備に取り組み、子どもたちの新聞への関心が高まってきている様子が見られた。

今年度は、2016年開催のNIE全国大会大分大会の実践校に指定されたことを受け、全校でNIEの実践・研究に取り組んだ。

## 1. 本校研究との関連

### (1) 研究主題について

昨年度、研究主題「子どもの学びを支える話し合い活動はどうあればよいか」のもと、「ペア対話」を学習活動に設定し、お互いの考えを伝え合ったり、練り合ったりさせる指導について研究してきた。その中で、相手を説得したり、お互いの考えを比較検討したりするための根拠となる事柄を、たくさんの情報の中から取り出して活用する力を育てる必要性が課題として見えてきた。

今年度は、これまで研究を続けてきたペア対話の活用とNIE実践をつなぐとともに、情報を取り出し、再構成する力を育てる指導を研究の中心に据え、上記の研究主題を設定した。

### (2) めざす子ども像

- 様々な情報の中から、目的に応じた情報を取り出すことができる子ども
- 取り出した情報を整理・選択・変換して再構成した情報を発信できる子ども

## (3) 研究の内容

- ・NIEを取り入れた授業実践（1人2回の互見授業と全体研2回）を軸とし、「情報を取り出す」場面が有効に機能する実践を構想する。
- ・新聞を身近に感じ、NIEの日常化につながるような環境整備を構想する。
- ・全国大会秋田大会、大分県セミナーなどの参加・還流報告を行い、他校の実践を知り自分の実践につなげる。

## 2. 実践の概要

### (1) NIEタイムの設定

毎月1回、朝の活動（15分間）に全校で新聞に慣れ親しむ時間を設定。継続することで、NIEの日常化につなげていった。

（内容）GODOジュニア、  
読売ワークシート、  
大分合同ワークシートの利用 など



### (2) 授業実践

#### ①1年生

- 6月 図工「やぶいたかたちからうまれたよ」
- 10月 生活「いきものとなかよし」

子ども新聞のクイズコーナーを提示して興味・関心を持たせ、めあてを「おうちの人にごうぶつクイズ新聞を書こう」と設定した。見学遠足で動物を観察したことの中から問題をつくり、3択の選択肢を考えさせた。おうちの人

が「なるほど!」「しらなかった!」と思ってくれるような内容を選ぶという視点を与え、おうちの人にとって必要な情報を選択させた。単なる文を用いた新聞づくりではなく、クイズ形式にして問題を考える活動により、観察した内容を取り出しやすく、新聞に抵抗なく親しむきっかけになったと考える。

○11月 国語「かたかなをかこう」

○1月 国語「いこうよ!かん字パーク」

## ②2年生

○7月 国語「夏がいっぱい」

○10月 国語「4コマ漫画にしたしもう」

○11月 国語「ようすをあらわすことば」

新聞から写真を選び、その様子が伝わるように、擬態語・形容詞・比喩を使い短文を作る活動に取り組んだ。ICTを活用して紙面の写真を見せることで、考えた様子が全体に伝わるようにした。



新聞の見出しにもつなげていくと同時に、文を読めなくても写真から内容を想像することができる新聞の良さに気づいたと思われる。

○12月 国語「かたかなでかくことば」

## ③3年生

○6月 図工「忍者になって遊ぼう」

○10月 国語

「新聞の見出しからへんをさがそう」

○12月 国語「秋から冬を表す季節の言葉を  
集め、かるたを作ろう」

季節の様子がわかる新聞の写真を選び、その写真から連想できる言葉集めをした後、五七五のリズムのかるたを作った。身近な内容や行ったことのある行事を選んだ子もいたが、写真だけからでは内容がわかりづらい場合もあるので、見出しや記事にも着目させ、何を表している写真なのかを情報の一つとして取り入れる活動に取り組めた。

## ④4年生

○10月 国語「熟語の成り立ち」

○11月 社会「地域の発展につくした人々  
(油屋熊八)」

○1月 社会「私たちの住んでいる県のようす」

○2月 総合「自分新聞を作ろう」

二分の一成人式に向けて、自分自身のこれまでの歩みを見つめ、自分の成長を実感することを目的として取り組んだ。保護者へのインタビューを通して自分の成長に家族の支えがあったことを知り、小さい頃の写真を見たり自分の年表を作成したりすることを通して、自分自身を客観的に見つめる機会になった。

## ⑤5年生

○6月 総合「トップニュースを選ぼう」

○7月 道徳「生き方について考えよう」

○10月 特別活動

「いただいている命に感謝しよう」

○1月 社会「TPPで日本の農業はどう  
なっていくのだろう」

農業単元の発展教材として、TPPに関する記事を扱った。その中でも課題の多い食料生産の「後継者不足」「販路の開拓」に関連した2つの記事の読み取りをした後、共通点を話し合わせることで、日本の食料生産の将来について考えさせた。日本の農業はひじょうに厳しい状況だが、今回は、そんな逆風の中、前向きに乗り切ろうとする人々の記事を通し

て、食料生産に携わる人々の生き方や工夫・努力に目を向けることができたと思われる。また、記事は、教科書よりも情報が新しく、人々の生き方や思いに着目しているので、我が国の産業について、より深く考えたり、社会の出来事に目を向けたりするねらいの達成に有効であったと考える。

### ⑥6年生

○10月 国語「人物像の新聞記事にぴったりの見出しをつけよう」

○12月 国語「新聞の広告表現をくらべよう」

新聞の一面全面広告を2タイプ提示し、どちらの広告の方が、宣伝効果があるか比較する活動に取り組んだ。それぞれの広告の「宣伝したい内容」の違いを共通理解した上で、より読み手に伝わる工夫としての表現・構成を、ペアで検討し見つけ出させていった。



自分の見つけた表現・構成が、読み手にとって、どのように伝わりやすいと言えるのか、さらにペアで検討させ、根拠が明確になるようにした。その結果、効果的な宣伝をするために必要な要素として、読み手に伝えたい内容の絞り込みや、読み手が必要とする情報の必要性に気付く姿がみられた。

○12月 社会「わたしたちのくらしと政治」

○1月 国語「忘れられない言葉」

### ⑦特別支援学級

○11月 自立活動・生活単元学習  
「新聞パズルに挑戦しよう」

○12月 自立活動「新聞で輪を作ろう」

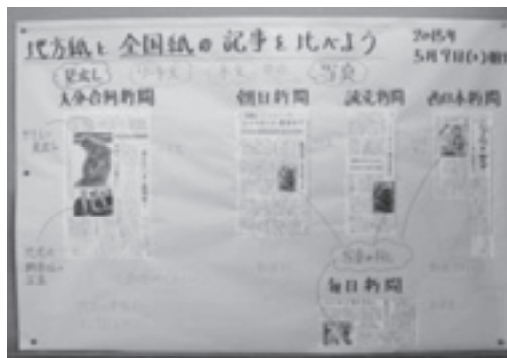
自立活動6区分の「3人間関係の形成」として、新聞紙の面積の広さを利用して、自分がかぐれる輪作りに取り組んだ。ルールは切れたところはつなげてはいけないと設定した。活動の前に、全体でより良いコミュニケーションをとるための声かけの仕方を確認した。そうすることで、言葉づかいに気をつけて話しかける姿が見られた。

○1月 国語・算数

「新聞のことを詳しく調べよう」

### (3) 環境整備

子どもたちが、新聞を気軽に手にとれる環境整備として、各学年の廊下に新聞コーナーを設置。朝の会で教師が話題の出来事を紹介したり、帰りの会で日直がおすすめの記事をスピーチしたりすることで、新聞や社会の出来事への興味・関心につなげた。休み時間、給食の準備中など、新聞を手にとる姿が少しずつ見られるようになってきている。



### 3. 成果と課題

#### (1) 学校研究から見えてきたもの

今年度、『まずは、やってみよう!』の姿勢で、連学年の互見授業を中心に27本の授業実践を積み重ねた。多くの実践を蓄積できたことが1番大きな成果であろう。また、試行錯誤する中で、たくさんの生産点や課題も見えてきた。実践を通して、見えてきたことを以下の2点に整理する。

##### ①NIEの基本的なとらえ

×新聞の学習



○新聞を活用することで、各教科・領域のねらいを、より効果的に達成する手立ての1つとなるもの

『子どもたちにどんな力がつけられるのか。』

を考えることも大切である。

##### ②学習素材としての活用

実践を通して、多岐にわたる新聞の活用が行われたことも成果の一つである。

- ・ 社会の出来事やニュースに関する記事
- ・ 文字（漢字、カタカナ、数値）
- ・ 写真 ・ 全面広告 ・ 4コマまんが
- ・ コラム ・ 紙そのものを素材として

しかし、新聞を、本やインターネット等の資料と代用できる素材としての活用ではなく、新聞だからこその良さを生かした活用を考えていくことが大切である。

また、記事を学習素材として活用する場合、

- ・ どの教科・領域で、 ・ どの学年で、
- ・ どの単元で、 ・ どの場面で、

等の吟味が必要となる。しかし、迷っているとタイミングを逃してしまうことが多い。また、扱いたい時に限って、適した記事がないといったことも多い。

- ・ 教師自身が、アンテナを張っておく。
- ・ 普段から、スクラップを心がける。

等の教師の姿勢も大切になってくるであろう。

#### (2) NIEの日常化に向けて

朝のNIEタイムは、日常化に欠かせない活動である。これからも気軽に楽しく新聞に親しめる活動を工夫していきたい。また、高学年は、読売ワークシートを週末の宿題の1つとして継続して取り組んだ。はじめは、一般紙を読むことに抵抗を感じている子どももいたが、興味・関心を持ちそうな社会の出来事を扱うことで、少しずつ慣れてきたようで、子どもたちからも扱った内容が話題として出るようになった。

#### (3) 日常化につながる環境整備に向けて

新聞を置くだけでは、子どもたちにとって身近なものにならない。新聞コーナーに足を向けさせるために、教師が仕組むことも必要である。

- ・ おすすめ記事の紹介をクイズ形式で行う。
- ・ 記事の前半だけ紹介し、後半は読ませる。
- ・ ○ページにおもしろい出来事が載っている、とだけ伝える。等

子どもたちの好奇心を揺さぶることは効果的である。新聞を読もうとする姿勢は、学習意欲よりも好奇心からスタートすると考える。

#### おわりに

情報社会に生きる子どもたちにとって、さまざまな情報に目を向けて、情報の取り出し（選択）・再構成（活用・表現・判断）する力は必要不可欠になってくるだろう。そういう点でも情報手段の一つであるNIEに日常的に取り組むことは大きな意義があるのとらえ、実践を続けていきたい。

全国大会が半年後に迫っている。しかし、全国大会はゴールではない。教師が、子どもたちと楽しみながら実践することによって、わくわく感が生まれ、子どもたちにつけたい力が身についていくと考える。

# 新聞の日常化について

大分大学教育福祉科学部附属小学校 安部 真治

## 1. はじめに

本校では重点目標の一つとして、大分県グローバル人材育成推進プランの具現化をかかっている。これからのグローバル社会を生きる大分県の子どもたちが、世界に挑戦し、多様な価値観を持った人々と協働し未来を切り拓くための力を育むために、研究・実践を積み重ねている。

大分県教育委員会は「グローバル人材」の資質・能力を以下のように定義している。

世界に挑戦し、多様な価値観を持った者と協働する基盤となる  
○挑戦意欲と責任感・使命感  
○多様性を受け入れ協働する力  
○大分県や日本への深い理解  
○知識・教養に基づき、論理的に考え伝える力  
○英語力（語学力）  
＝五つの総合力

本校では NIE がこの五つの総合力の中で、特に「大分県や日本への深い理解」が密接に関係すると考える。なぜなら新聞の役割として、社会の出来事をわかりやすく伝えるというのがあるからだ。

世の中にはテレビやインターネットなどの多数のメディアがある。その中でも、新聞は情報の多様性という構成面の特徴、自分の裁量で記事を選び、読むことができるという選択性の面で優れている。一方的に与えられた情報ではなく、多くの情報の中から比較したり、検討したりしながら自分に必要な情報を得ることは今求められている多様な価値観の育成にもつながる。

NIE の取り組みを通して、本校のめざす教育をより強固にしていけると考えている。

## 2. つけたい力とめざす子ども像

NIE 大分大会のテーマ及び、上記の本校や県の方針と関わって、つけたい力を次のように設定した。

### 【NIE を通してつけたい力】

・新聞を通して、社会や地域についての理解を深める。

### 【めざす子ども像】

世の中のことに興味をもち、自分の考えを持つとともに、その考えを友だちと交流することを通して、自分と世の中のつながりに気づく子ども

### 【子どもの具体像】

- ・世の中ではこんなことが起きているんだなあ
- ・みんなはどう考えるか聞いてみたいなあ。
- ・ぼくはこう考えるよ。
- ・なるほど、そういう考えもあるんだ。



## 3. 実践の概要

(1) フリートークの力をいかした交流活動

### ①新聞を使った交流活動の意義について

今年度より、朝の帯時間に全学級で、「児童が設定した話題についてみんなで話す。」というフリートークを実践してきた。このフリートークを続けることにより、子ども同士の相互理解が深まるだけでなく、自分とは異なる考えを受け止める受動的な聞き方が育ち、それぞれが様々な意見を認め合うことができるようになってきた。

一方で子どもの身近な生活や経験が話題にあがることから、「お互いを認め合うこと」に重きを置いていたとしても、マンネリ感が否めない部分もあった。

そこで、これまでのフリートークに新聞を取り入れることで、さらに児童の力が伸びるのではないかと考えた。新聞を通して、感じたことや考えたことを話すことで、社会や地域についての理解を深めることにつながり、ひいては新

間に日常的に親しむことが期待できる。

新聞を使ったフリートークはこれまでのフリートークと違い、話題の豊富さ、広がりという点で優れている。新聞には世界、日本、地域など様々な記事が載せられている。新聞を取り入れることで、幅広い話題に触れさせることができる。自分と社会のつながりの中でこのように多様な情報に触れさせることで、つけたい力の社会や地域についての理解を深めることができる考えた。

教科の授業実践に加えて、朝の帯時間を大切にすることで、新聞に親しませていきたい。

②新聞を使った交流活動の実際

では、具体的にどのようにフリートークに新聞を取り入れていくのか。平成27年度は五つの視点で全校でNIE活動を進めている。

【交流活動の概要】

A 新聞記事の中から好きな写真を選んで紹介する。	低・中
B コラムや読書欄に対しての自分の意見を交流する。	低・中・高
C 一覧になった新聞記事の中から好きな新聞記事を選ぶ。	中・高
D グループでテーマに沿って新聞記事を集め、クラスみんなに広める。	中・高
E 新聞記事にぴったりの見出しを考える。	高

\*低中高は目安

【交流活動の具体例】

A 新聞記事の中から好きな写真を選んで紹介する。



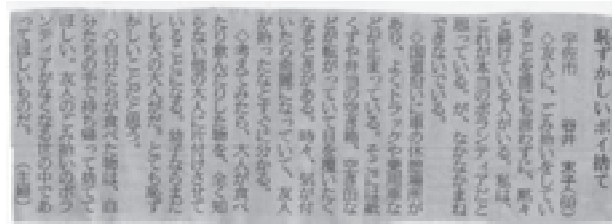
<取り組み方>

- ①記事を選んだ人が記事の内容とどうしてその記事を選んだのかを話す。
- ②ゆるキャラの写真をもとに、自分の好きなゆるキャラについて紹介する。

<気を付けること>

- ・内容面にはあまりふみこまない。何について話すのか話題をしぼる必要はある。

B コラムや読書欄に対しての自分の意見を交流する。



<取り組み方>

- ①コラムの紹介と自分の意見を発表する。
- ②提案者の意見に関する自分の考えを交流する。→身の回りで見たとあるポイ捨てなど

<気を付けること>

- ・事前に新聞記事を児童に配布しておき、読ませておく必要がある。
- ・Aと違って記事の内容をふまえて話ができるとうい。

C 一覧になった新聞記事の中から好きな新聞記事を選ぶ。



<取り組み方>

- ①グループに一般紙のある面を渡す。各々で好きな新聞記事を選ぶ。
- ②好きな新聞記事とそのわけを交流する。

<気を付けること>

- ・クラスに新聞の同じ面を準備しないとイケないという難しさがある。

D グループでテーマに沿って新聞記事を集め、  
クラスみんなに広める。

ハッピー



<取り組み方>

①グループの一人ひとりが選んだ理由  
を話す。

②どの新聞記事から一番ハッピーを感じ  
たのかフリートークをする。

<気を付けること>

- ・左の新聞記事は「ハッピー」のテーマ  
の元四つの記事を集めたものである。  
グループで集めさせるとよい。
- ・事前に新聞記事を児童に配布してお  
き、読ませておく必要がある。

E 新聞記事にぴったりの見出しを考える。



<取り組み方>

①この本文からどのような見出しが考  
えられるかそれぞれ発表する。

②記者がつけた見出しを発表し、記者  
の思いを考えさせる。

<気を付けること>

- ・見出しに注目して記事を選ぶので児  
童には難しい。教師主導で実施する  
とよい。

③新聞を使った交流活動の成果と課題

以上五つの視点で取り組みを進めてきた。そ  
こで、次のような成果と課題がみえてきた。

【成果】

- ・話題の広がりがみられた。  
新聞には多様な情報が含まれている。児童は  
新聞に日常的に触れることで、地域や社会に  
ついて知ることができた。
- ・話す土台ができる。  
全員が新聞記事を読んでいるという土台が  
あるため、話をする中で、「なるほど」「あの  
ことか。」などの共感性がみられた。
- ・社会や地域についての理解を深めることがで  
きる。  
フリートークの中で、よく交わされる言葉が  
「こんなことがおきてるんだあ。」「おもしろ  
そう。」である。新聞に触れることで、子ど  
もたちは社会や地域についての理解を深め  
ることができている。災害の記事を取り上げ  
たときは「わたしもできることを手伝いた  
い。」という発言も見られた。新聞記事を自  
分と関わらせてとらえていることがわかる。

【課題】

- ・時間設定  
新聞記事をいつ読ませるのかという課題が  
ある。朝の帯時間に新聞読ませるとどうし  
ても話す時間が少なくなってしまう。家庭と連  
携する必要がある。
- ・学習形態の工夫  
グループ形態がいいのか、ペア形態がいいの  
かなど学習形態は工夫の余地がある。
- ・子どもが記事を選ぶ（選択性）  
今年度は教師が記事を選択することが多か  
った。子どもが自ら新聞を手取るためにも、  
どの記事をフリートークの話題とするのか  
子どもにゆだねる必要がある。そのためには、  
新聞を置く場所などを整えなければならない。

(2) 国語科を中心とした授業実践について  
朝の帯時間に加えて、国語科を中心として授  
業実践を進めている。



## ① 元の概要

**主な指導事項** 「読むこと ウ、カ」「書くこと イ、ウ」

本単元では言語活動として、「自分の課題を解決するために新聞を読み、考えたことを意見文にまとめること」を位置づけた。

児童は、社会科の学習を通して興味を持つと同時に疑問も感じた日本のエネルギー問題について、新聞に投稿する意見文にまとめるために新聞や本を活用して情報を集めた。そして、自分の意見を構築する上で必要な取捨選択したり、構成を考えたりする中で、国語科のねらいに迫るとともに、NIEのねらいにも迫ることが出来た。

共通学習材「世界遺産～白神山地からの提言」で情報の収集の仕方や意見文の書き方のポイントを学び、その後、実際に新聞を活用しながら自分の「エネルギー問題についての提言」で、教科書での学びを活用した。

## ② 業の展開

まず、社会科の学習の中で疑問に感じたことを出し合いながら、その疑問を解決するために、新聞を主とした資料を調べ、得た情報を取捨選択しながら意見文としてまとめるという学習計画を立てた。

次に、教科書教材「世界遺産～白神山地からの提言」で、意見文にまとめるための情報の選択の仕方（国語科のねらい：読むことウ、カ）や意見文の書き方（国語科のねらい：書くことイ、ウ）を学んだ。その際、児童は並行して新聞や本を読み、必要な情報を集める活動（国語科のねらい：読むことカ）を行った。その後、実際に新聞で得た情報を付箋に書き出したり、それらに関連づけたり（国語科のねらい：読むことウ）しながら、必要な情報を取捨選択し、自分の考えを再構築した。

そして、意見文を書く段階では、事実と意見を明確にしなが（国語科のねらい：書くことウ）付箋を重ねたり並び替えたりしながら構成

を考え（国語科のねらい：書くことイ）たりし、意見文に仕上げることができた。

## ③ 成果と課題

NIEの大きな課題として「新聞ありき」の活動があげられる。そこで本単元では、学習指導要領にある教科のねらいを明確にし、その中で新聞を有効活用できたことは成果である。また、本単元では新聞も一つのツールとして用い、本や図鑑などと同じように扱ったので、子どもたちの主体的な学びも保障できた。今回は「新聞に投稿する」というねらいが明確であったことと日頃から社会科の学習や朝の会などで新聞は活用していたこともあり、子どもたちは抵抗なく新聞を活用することができた。特に「新聞に投稿すること」は子どもたちにとって非常に意義があったようで、どの子も主体的に取り組むことができた。新聞を通して社会とつながることの楽しさを実感できたようであった。

課題としては、子ども自ら「情報を得るためのツール」として、新聞に手を伸ばすということはまだ難しく、教師から情報の一つとして準備したことである。今後は「新聞ありき」にならないようにしつつも、子どもたちに情報を得る一つのツールとして新聞を定着させる実践が必要である。

## 4. おわりに

本校のNIE活動は始まったばかりである。課題も山積している。しかし、新聞を休み時間に読むなど、児童にとって新聞が身近なものになってきている。

全国大会では、子どもが自ら新聞を手に取り、生き生きと話す姿を見ていただきたい。



# 豊かな心をはぐくむN I Eの取り組み

## ～新聞を通して言語表現の力をつけ、 より良い生き方を求めていくN I E活動の構想～

別府市立別府中央小学校 種村 由加

### 1. はじめに

本校は、道徳の研究をしているが、子どもたちが道徳的価値を追究していくためには、社会のさまざまな事象に触れたり、豊かな言語力を育んだりすることが重要である。こうした力をつけるためのツールとして、新聞は最適だが、近年、新聞を購読している家庭も減り、子どもが新聞に触れる機会は少なくなっているのが現実である。

そこで、N I Eの実践校に指定していただいたことをきっかけに、全校でN I Eの実践を継続して行い、新聞を通して子どもに読む力だけでなく、社会のさまざまな事象に出会う機会を増やしていこうと考えた。

### 2. 導入方法

#### (1) ねらい

- 新聞を授業に活用することで、子どもたちがいろいろな事象に出会い、考える機会をつくる。
- 新聞に親しみ、興味関心をもつことで、進んで新聞を読もうとする子どもを育てる。

#### (2) 名称

「N I E」タイム (エヌアイイータイム)

#### (3) 時間

- 毎週金曜日 (月4回)  
朝の時間 8 : 30 ~ 8 : 40
- 3年生以上は、総合的な学習の時間をはじめ、道徳及び特別活動、各教科において適宜新聞活用する

#### (4) つけたい力

- 読解力・・・言葉にこだわり、話の内容の要点をつかむことができる
- 思考力、判断力・・・社会事象と自分自身のつながりを意識する
- 表現力・・・記事に対する自分の考えを表現する

#### (5) 活動例

- ペアやグループ学習も積極的に取り入れる
- 命について述べている記事を選んで自分の意見を書こう
- 写真を見て思ったことを書こう、写真から気持ちを想像しよう
- 記事に見出しをつけてみよう
- 記事を読んで「いいなあ」「すてきななあ」と思うことを書いてみよう話し合ってみよう 他

#### (6) 備考

- ワークシートを貼る台紙 (A4) を用意する。使用したワークシートは貼っていく。(学習の蓄積)

### 3. 実践の概要

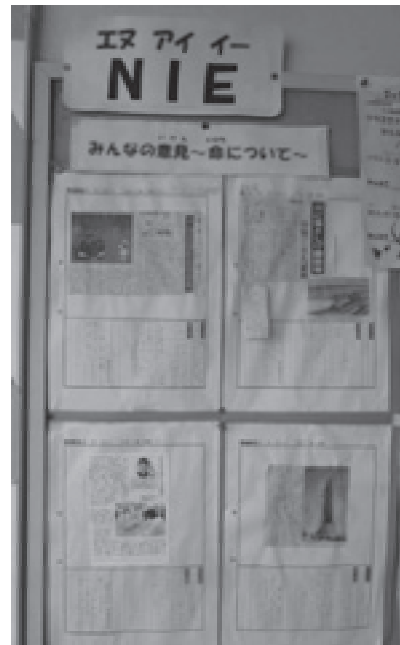
#### (1) 環境づくり

(新聞を置く場所と整理の方法)

新聞を置く場所を、全校の児童、教職員が通行する、児童用昇降口に設置した。



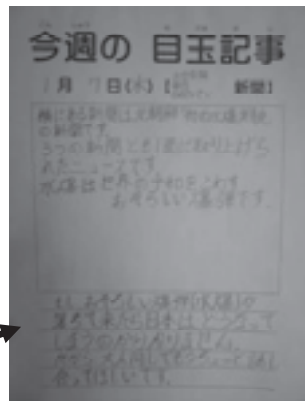
昇降口にある、「NIE コーナー」  
座って読めるようベンチがある。



また、NIE 掲示板については、全校児童、  
教職員が利用する図書室前の掲示板に設置  
した。



広報委員会による「今月の目玉記事」コーナー

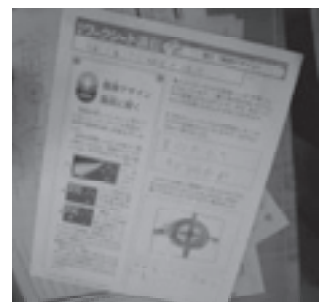


### 3 実践の内容

#### (1) 全校NIEタイム

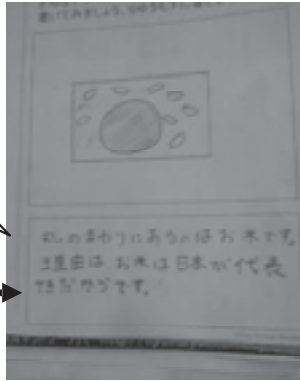
金曜日の朝時間を「NIEタイム」として、  
全校で取り組んでいる。

次の写真は、ワークシートに取り組んで  
いるところである。内容は、ニュージーラ  
ンドの国旗が国民投票によって変更にな  
ったことが書かれており、自分が日本の国  
旗をデザインできるとしたらどんなデザ  
インがよいか、というものである。創造的  
なワークシートは、読んで考えるだけでな  
く子どもたちの創造力にも働きかけるよ  
うだ。時間が来ても、熱心に書き続ける子  
どもがいた。

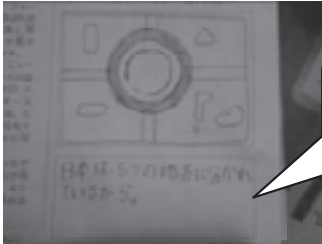


こんな国旗はどうか

丸の周りにはお米です。理由は、お米は日本が代表的だからです。



日本は五つの地方に分かれているから



## (2) 教科におけるNIE

高学年では、国語科において「新聞を作ろう」という単元がある。そこで利用したり、児童会活動での新聞づくりや宿泊体験学習の活動を新聞にまとめたりする際に、実際の新聞を活用した。

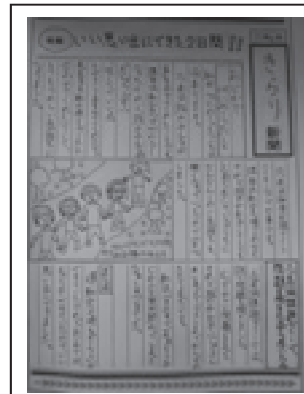
新聞づくりの腕前は、書くほどにアップしてきている。大見出しの工夫、小見出しの工夫、内容にそったイラストの挿入等、子どもたちの工夫が際立つようになってきた。

### ①新聞づくり

写真は、4年生の活動の一つである。行事が多いことから、宿泊体験学習の様子を新聞にまとめている。

また、社会では郷土の偉人として、油屋熊八翁について学習した。写真も活用しながら、熊八翁についてまとめていった。

「大見出し」「小見出し」「割り付け」等、言葉も学びながらの作成なので、作りながら新聞の仕組みについて学習を深めることができた。



宿泊学習についてまとめた新聞



社会見学についてまとめた新聞

### ②道徳の授業において

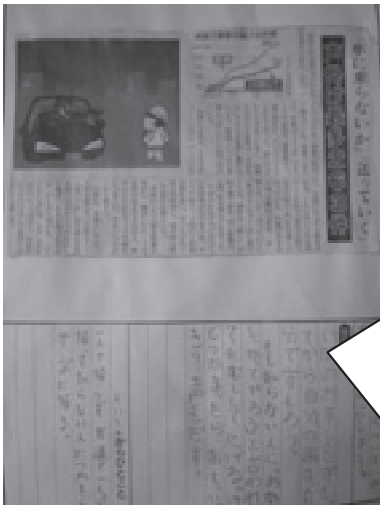
道徳の授業で、「いのちについて関係する記事を選んで自分の考えを書こう」という実践した。

2人一組で新聞から記事を選び、その記事を読んだ感想や命についての自分の考えを書くよう指示した。毎週のワークシート学習の効果もあり、子どもたちは、自由に記事を選び、その記事に対する意見を述べていた。「いのち」というキーワードから、子どもたちは自他の命だけでなく、グローバルな視点からの「いのち」についても記事を選んでいった。



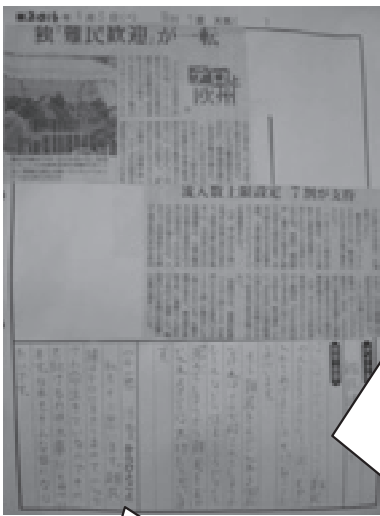
2人一組で「いのち」に関連する記事を選ぶ





**タイトル「悪い人についていかず命を大切にしよう」**

いかのおすしを守って自分の命は自分で守ろう。もし知らない人に「おかしかってやろう」と言われても、無視して逃げる。けどつかまったら、おもいきり声を出す。



**タイトル「難民たちの気持ち」**

僕はテロから逃げてくる難民を自分たちの国に迎え入れてあげることが大切だと思います。もし難民を迎え入れる国がなければ、テロで殺されてしまうかもしれないし住むところなくて死んでしまうから。

私もそう思います難民たちはテロに巻き込まれて一生懸命生きているので、それを助けるのは大事だと思います。日本もそんな国になりたいです。



4年生の掲示板も、たくさんの切り抜きと意見でうまっています

#### 4. 実践の感想と今後の課題

##### (1) 実践の感想

N I Eに取り組み始めて3年が経過する。開始当初は、ワークシートに取り組む他、新聞から文字を切り抜いてレイアウトしたり、好きな写真を選んだり、楽しい活動が主であった。

しかし、今年度は、前述したねらい（読解力、思考力、判断力、表現力）に近づけるよう、テーマにそって新聞記事を切り抜き、自分の考えを書くという活動を始めた。

4年生では、「いのち」をテーマに、総合的な活動をすすめている。道徳の「生命尊重」の項目にも通じるものである。そこで、「いのち」にまつわる新聞記事をえらび、それに自分の意見を書くという活動をおこなった。こちらが考えている以上に、記事をよく読んで切り取り、意見を書いていることに感心した。

これは、一朝一夕にできることではなく、毎週金曜日の朝、ワークシートに取り組んでいる成果ともいえる。そして、各学年が、それぞれの発達段階にあったN I E活動を取り入れた成果ともいえるだろう。

##### (2) 今後の課題

4年生だけを例にとると、新聞を購読している家庭は、3割弱であるが、新聞が目の前にあれば、子どもたちは教師が思っている以上に、興味を持ち楽しんで取り組むということがわかった。

継続して、基礎・基本の力をつけられるよう取り組んでいきたい。最終的には、本校の研究の中心である道徳の授業の中で、子どもたちが道徳的価値に迫っていくような力がつくことを目標にして、来年度は、金曜日の時間もワークシートだけでなく、切り抜きをさせる等、いろいろな活動を進めていきたい。